

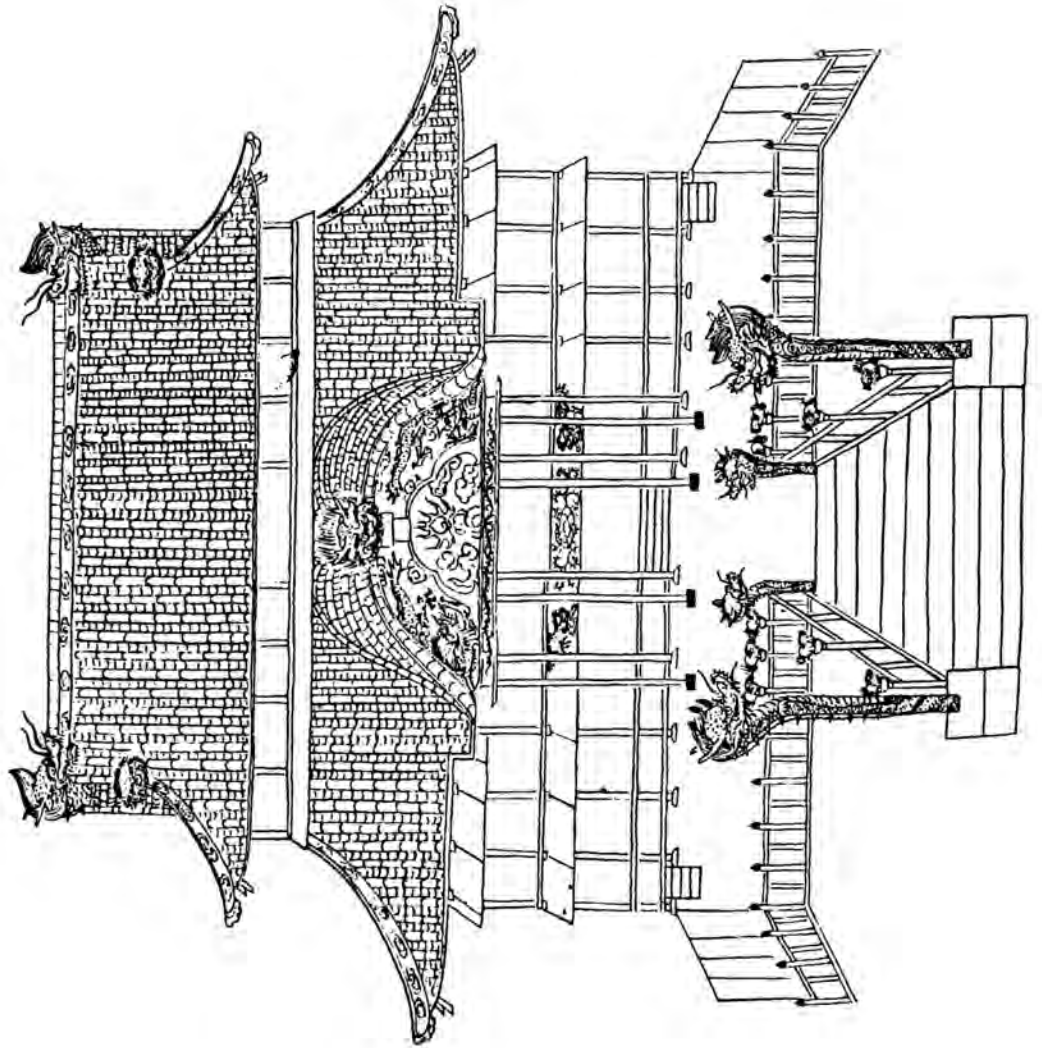
## 第7章

### 資料編

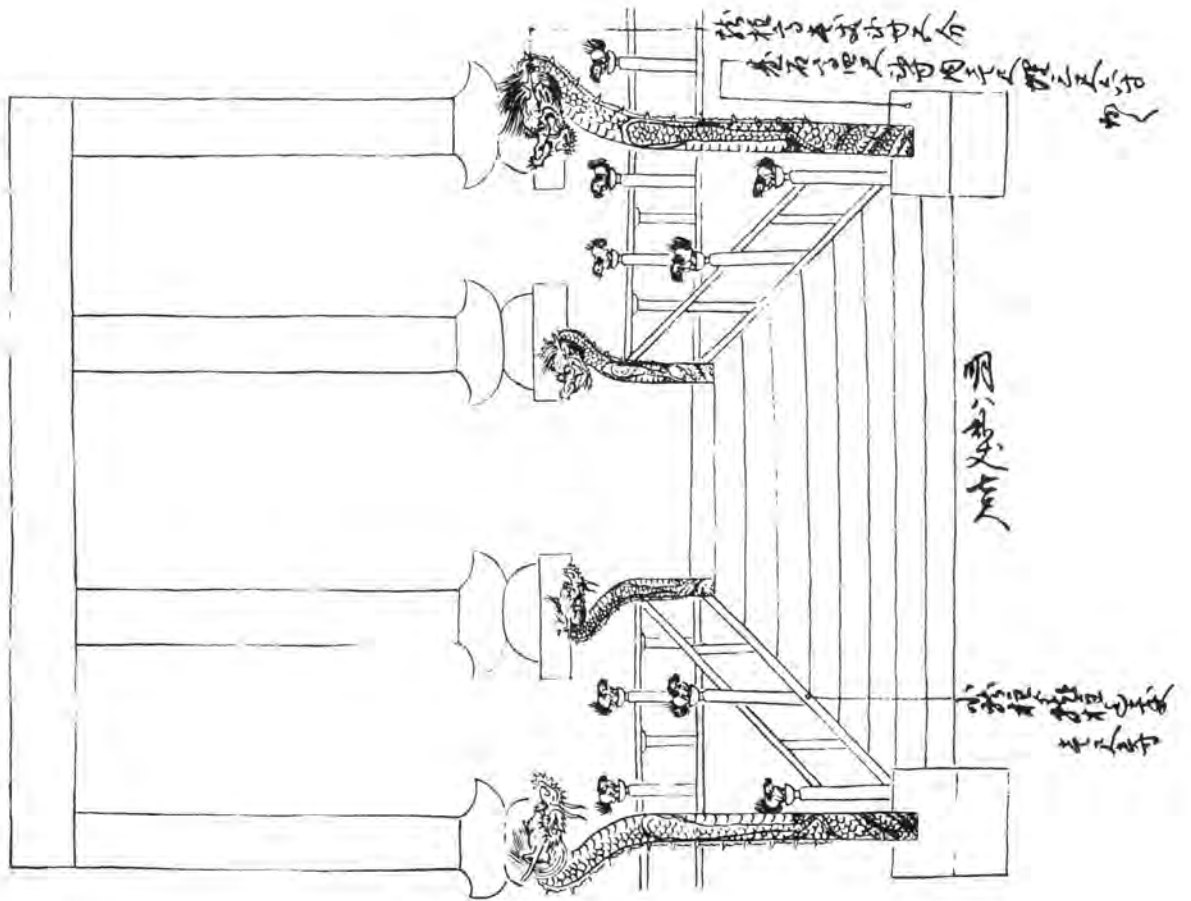
■乾隆三十三年 戊子  
百浦添御殿普請付御絵図并御材木寸法記

礼院志序

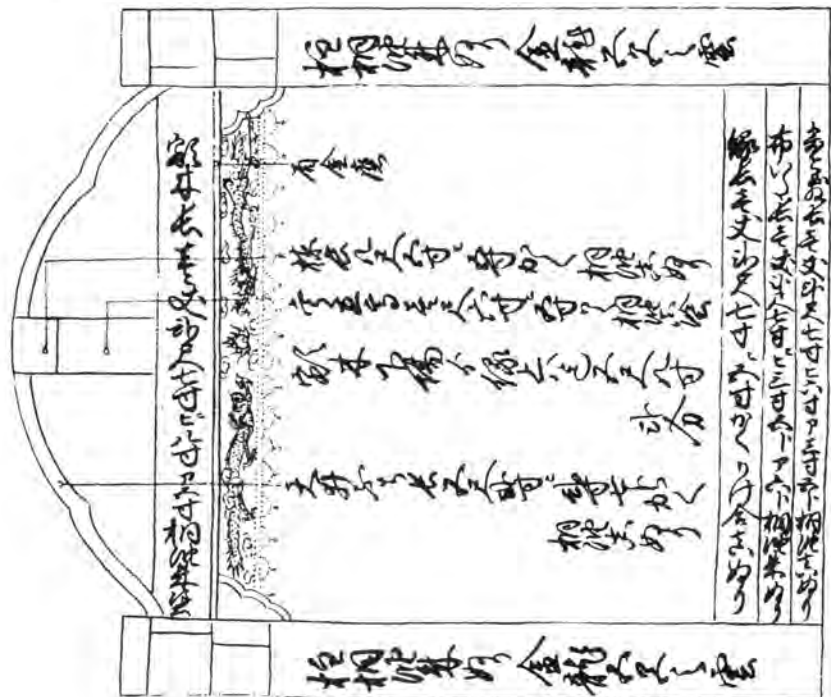
礼院志序  
礼院志序



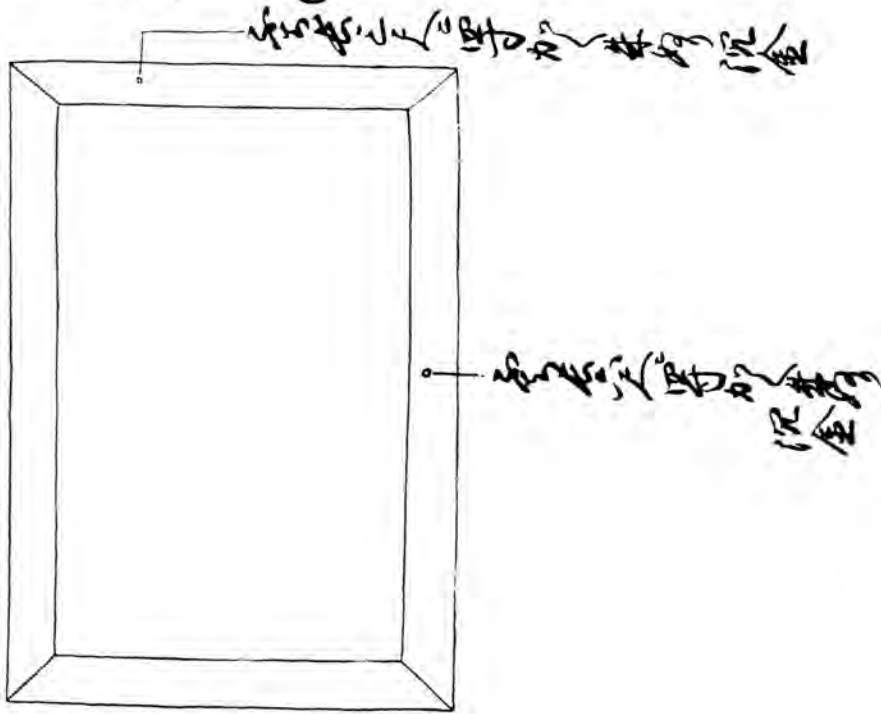




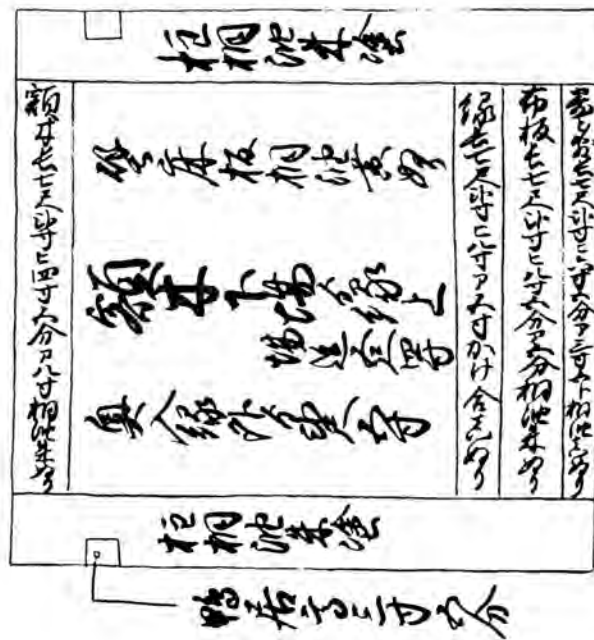
# 御製圖



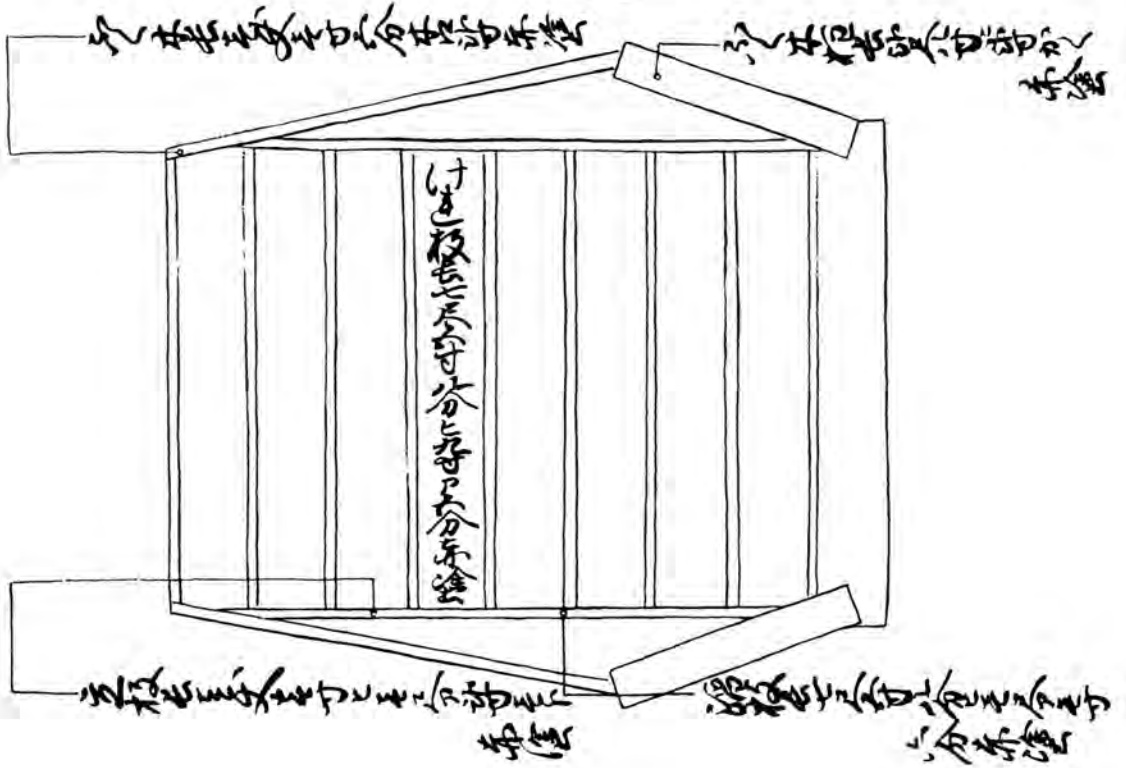
# 卷部装束之图



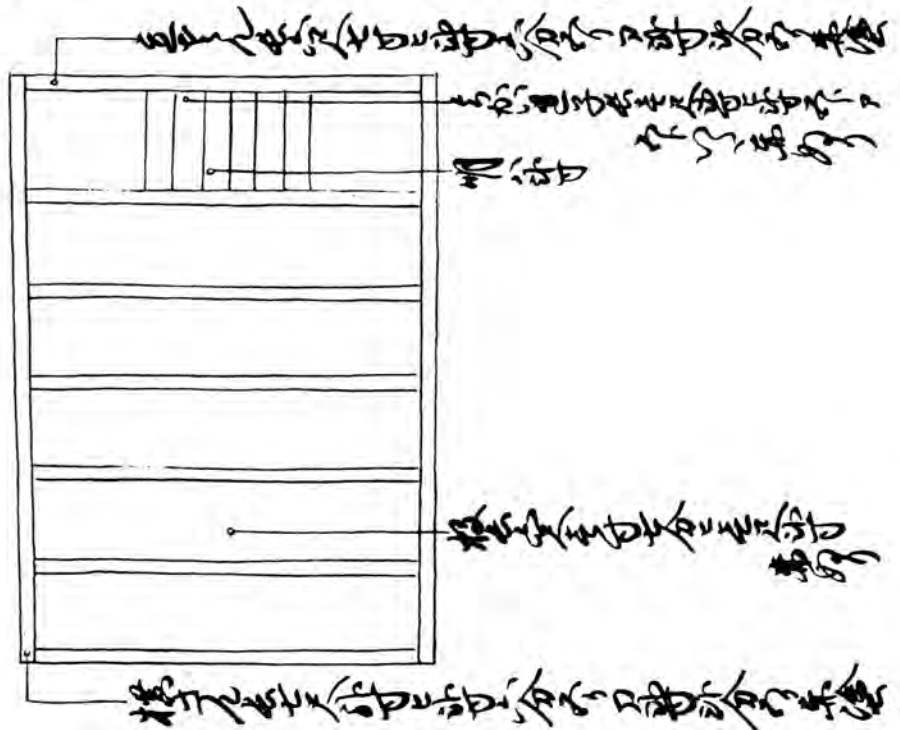
# 御本之图



# Figure 1

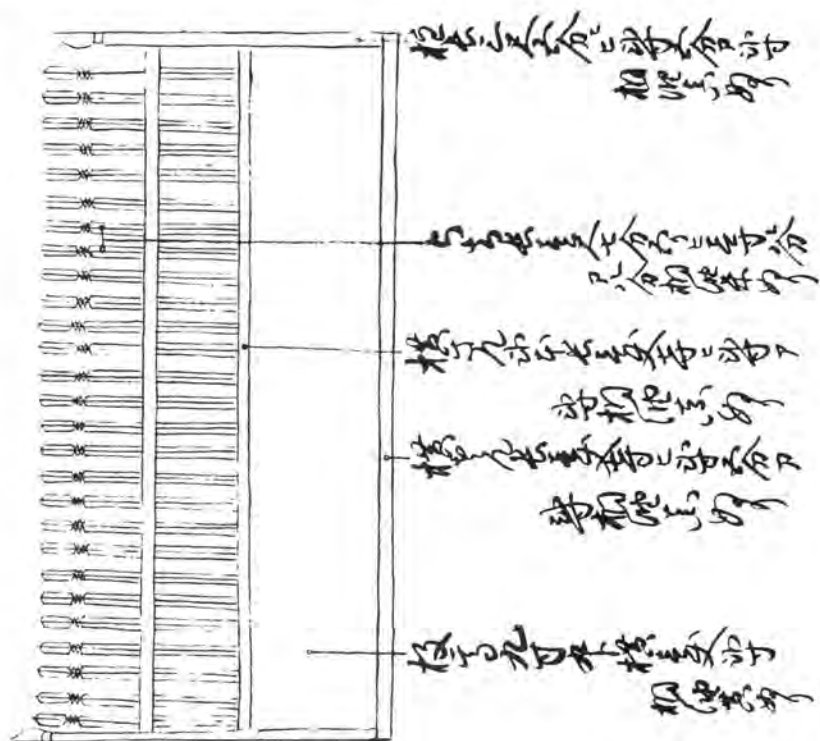


# Figure 2

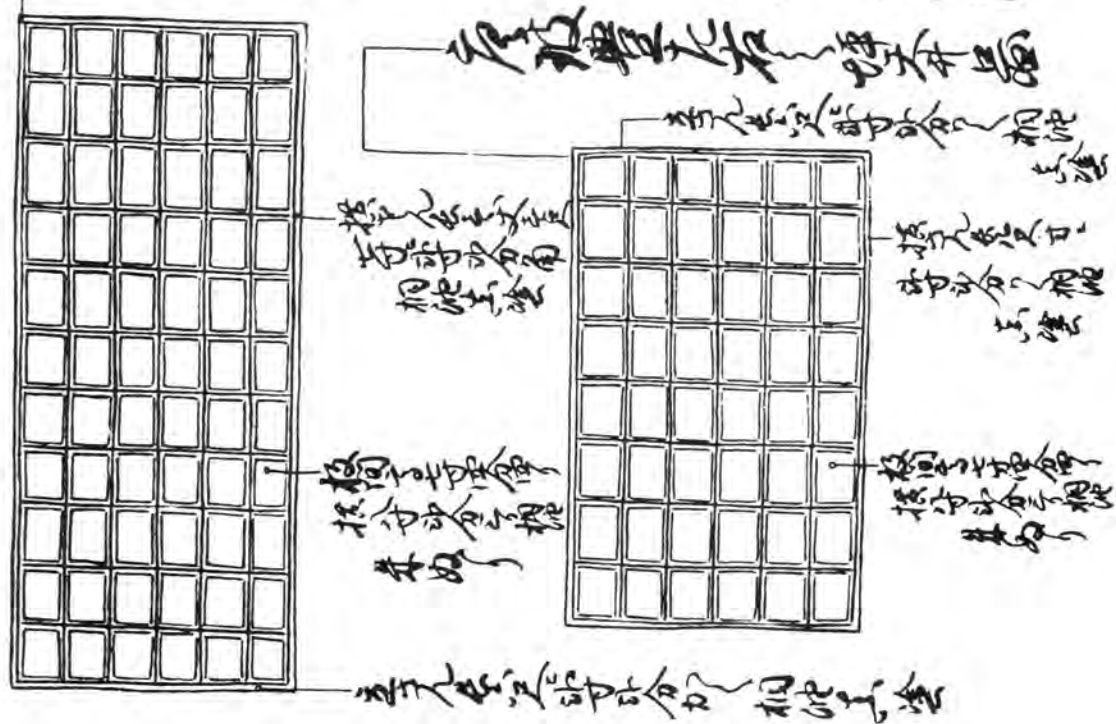




# 木心板之圖

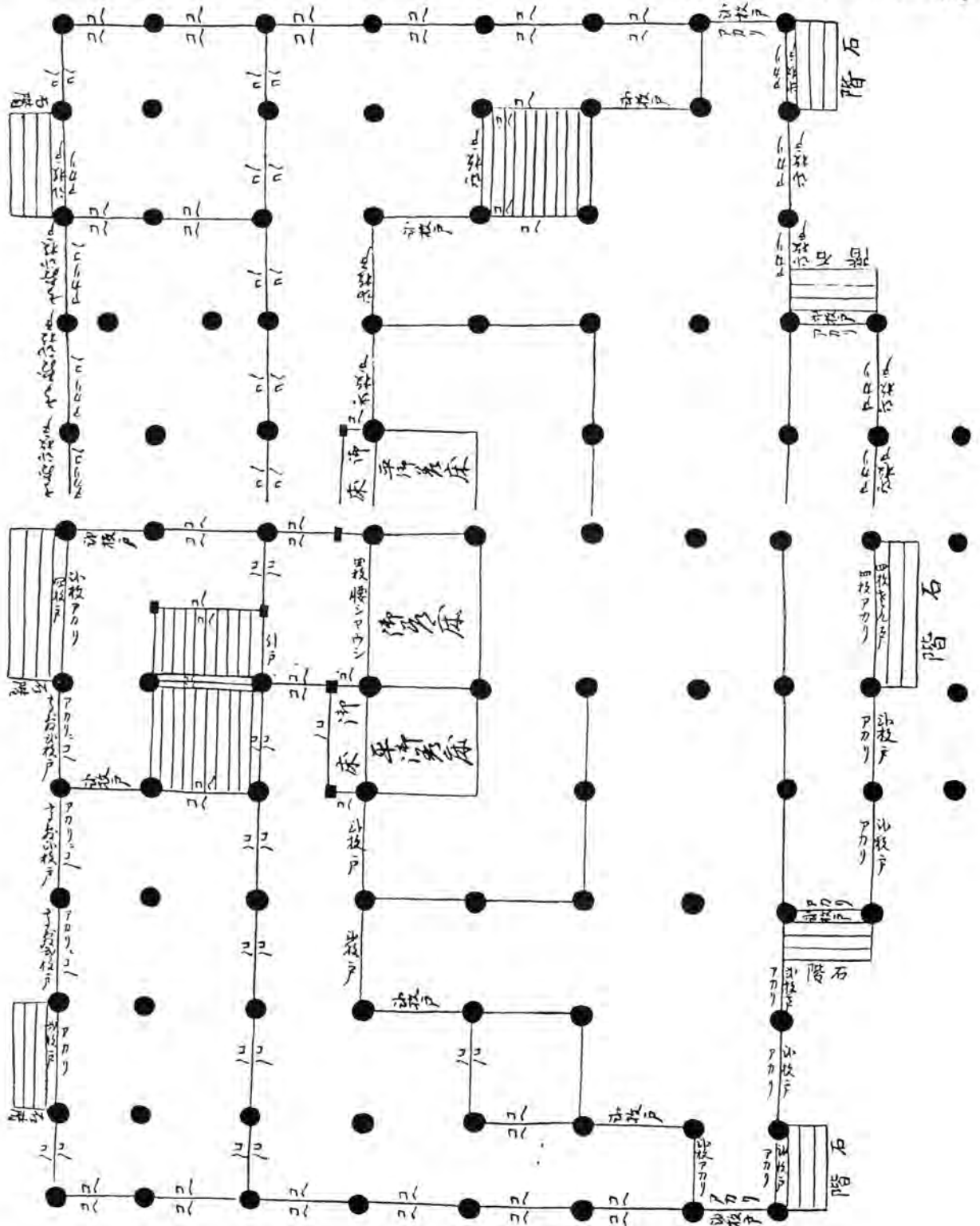


# 廣收盤之圖

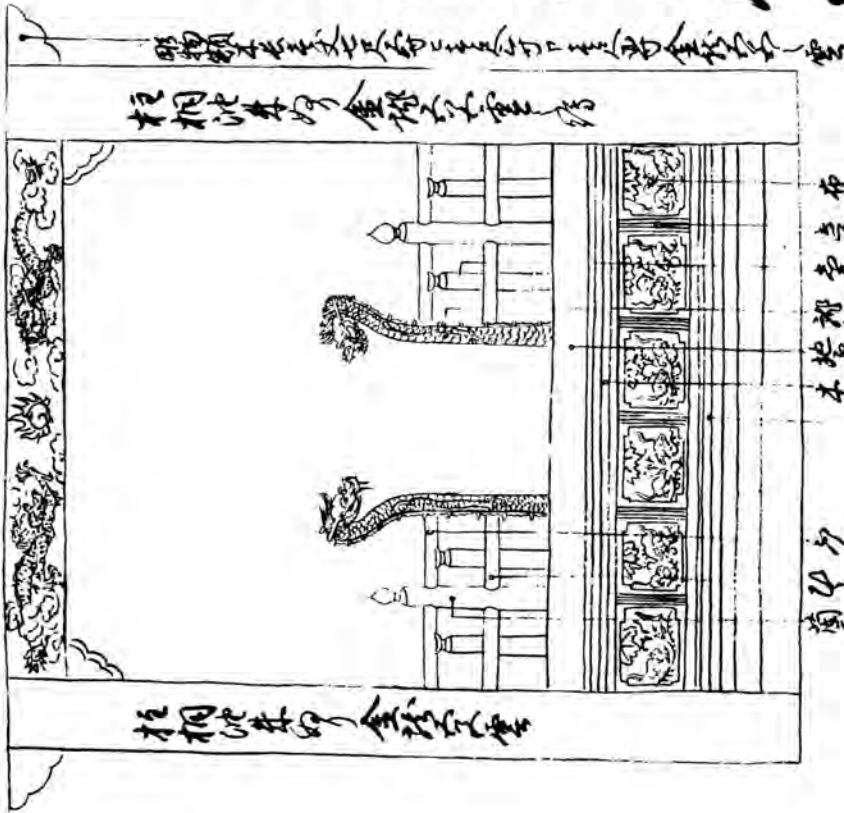


# 下原理圖

第一層 柱中  
 第二層 柱中  
 第三層 柱中  
 第四層 柱中



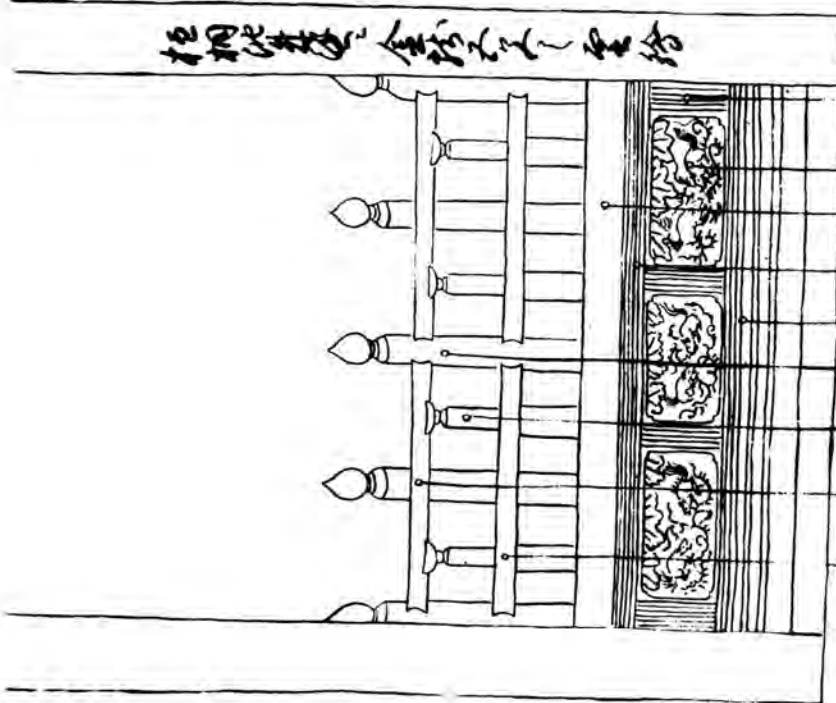
# 大原理御成林之西園



柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也

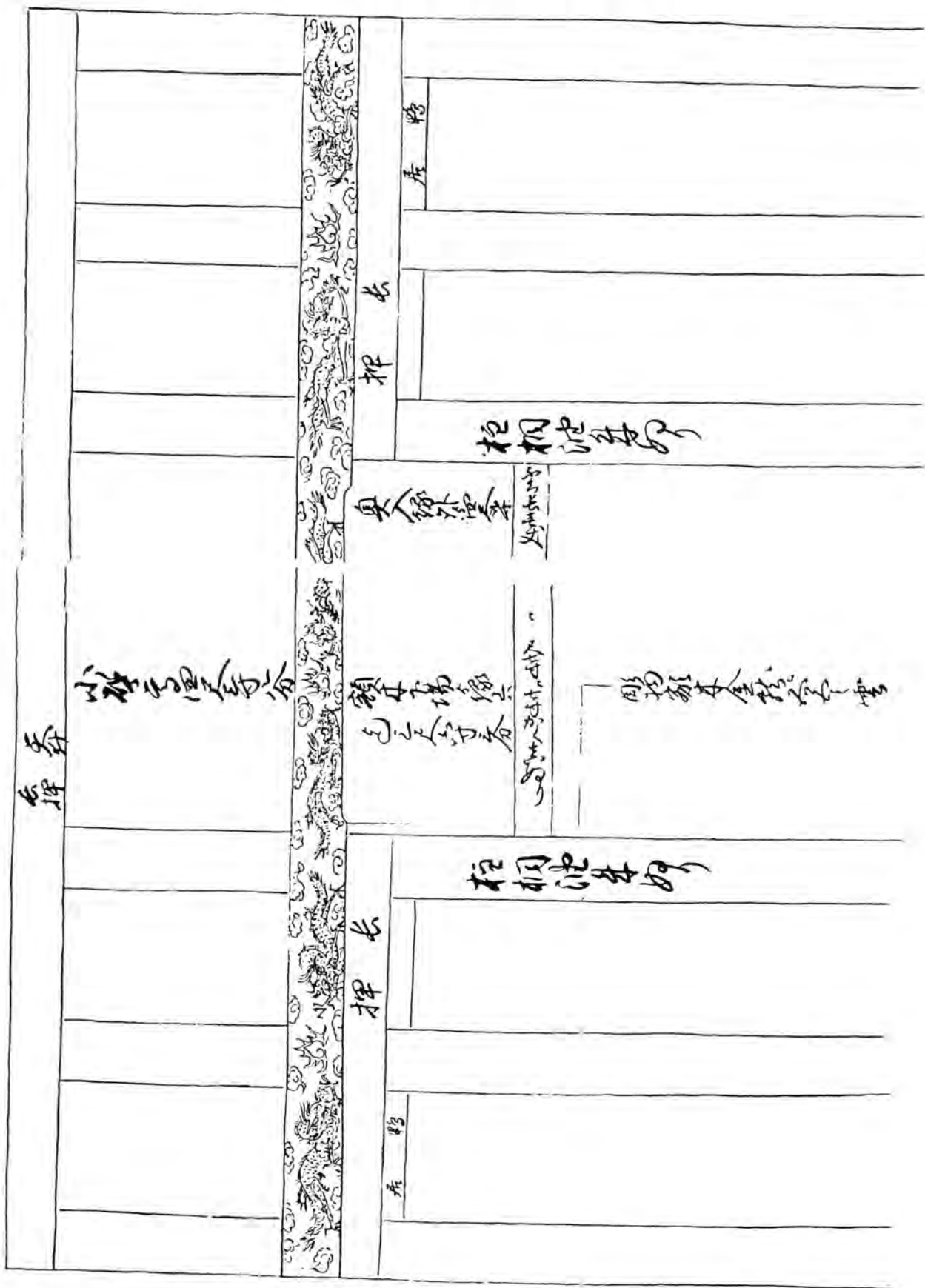
柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也

# 同御之景



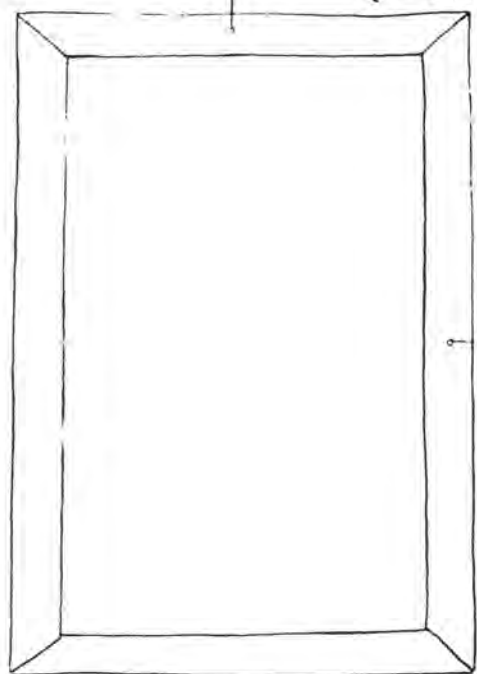
柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也  
 柗桐此林乃金標之庭也

# 大庫理部之圖



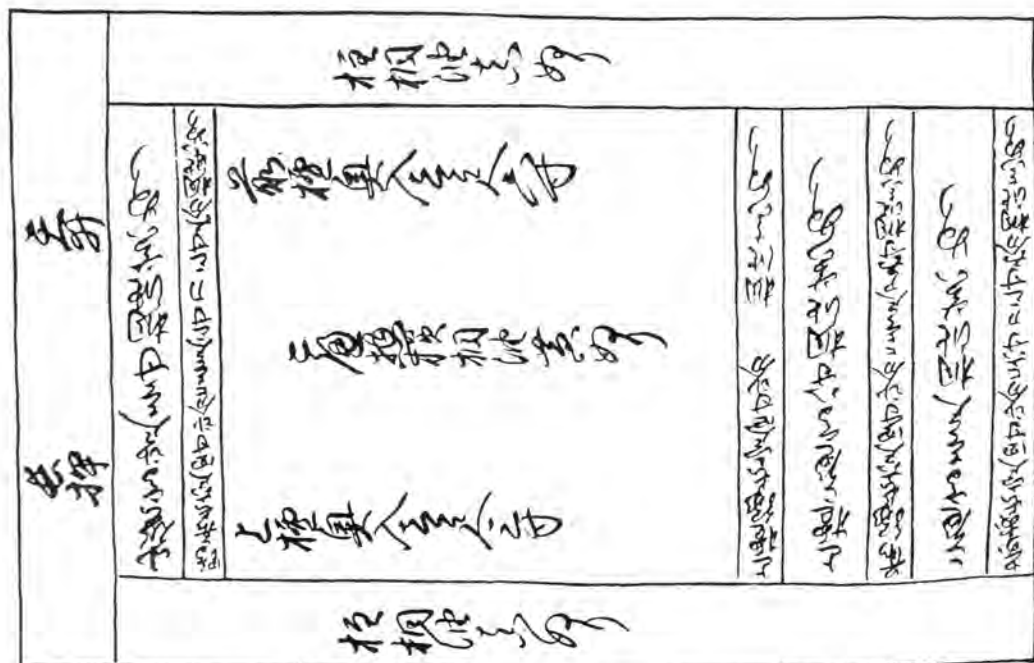
# 書架各架之圖

此架之架面與架身  
俱金



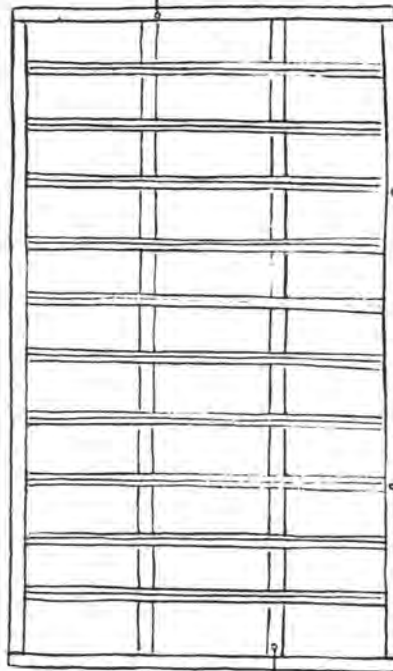
此架之架面與架身  
俱金

# 如左架之架面之圖



# 二階目

二階目 二階目 二階目 二階目 二階目



二階目 二階目 二階目 二階目 二階目

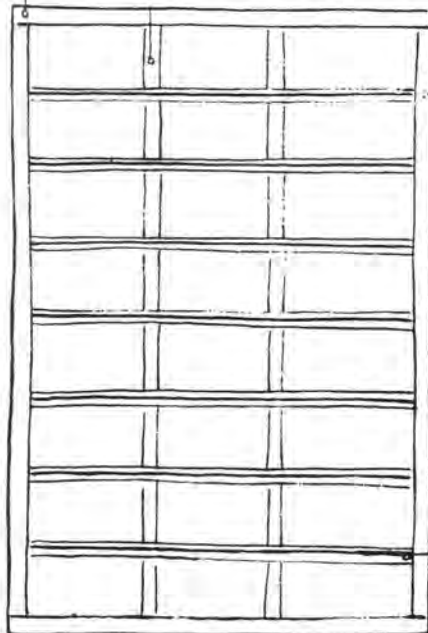
二階目 二階目 二階目 二階目 二階目

二階目 二階目 二階目 二階目 二階目

# 三階目

三階目

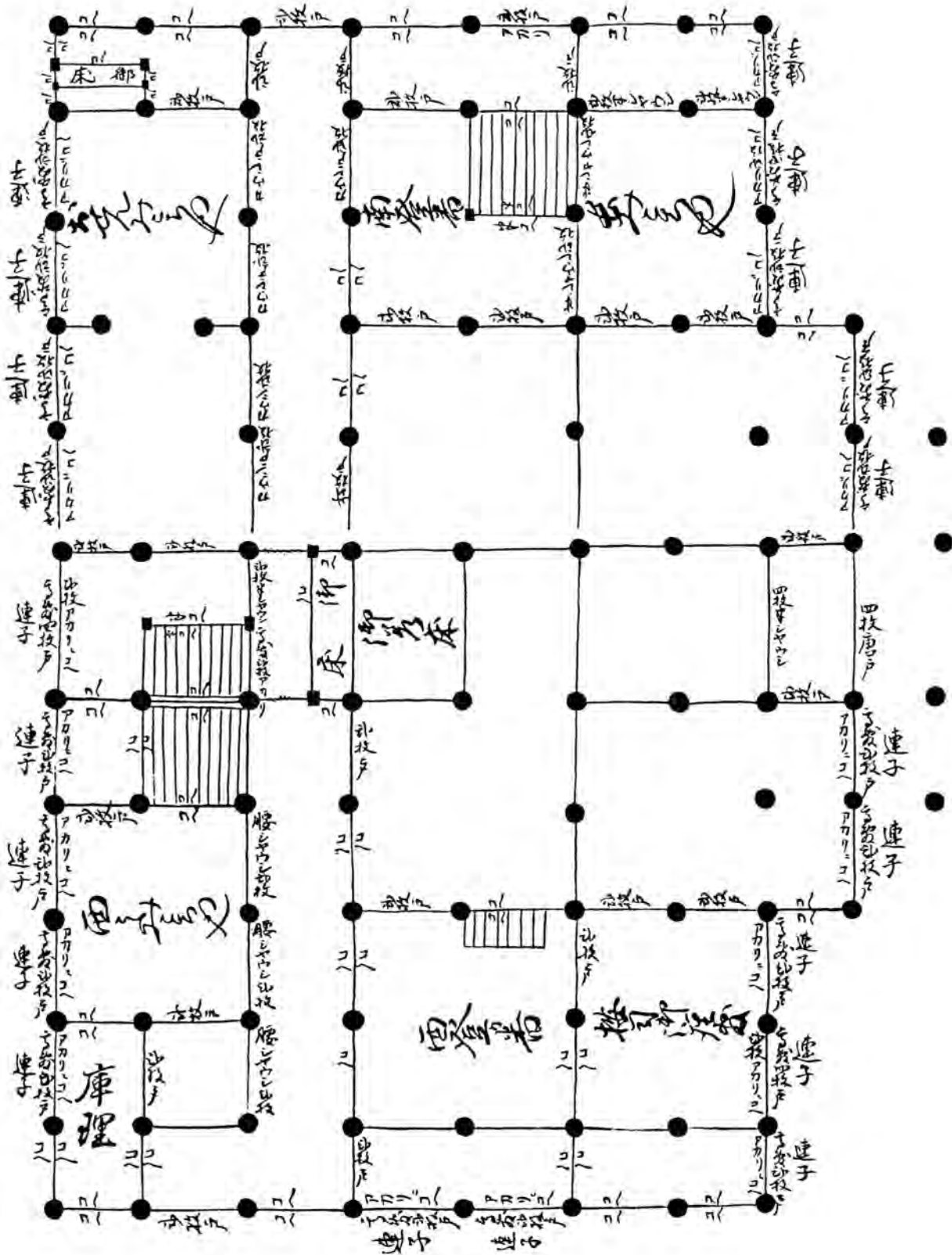
三階目 三階目 三階目 三階目 三階目



三階目 三階目 三階目 三階目 三階目

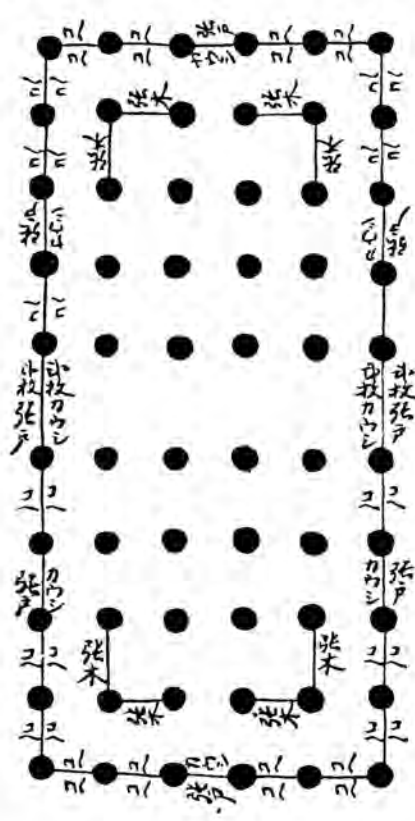
三階目 三階目 三階目 三階目 三階目

# 二階平面図





# 二弦圖

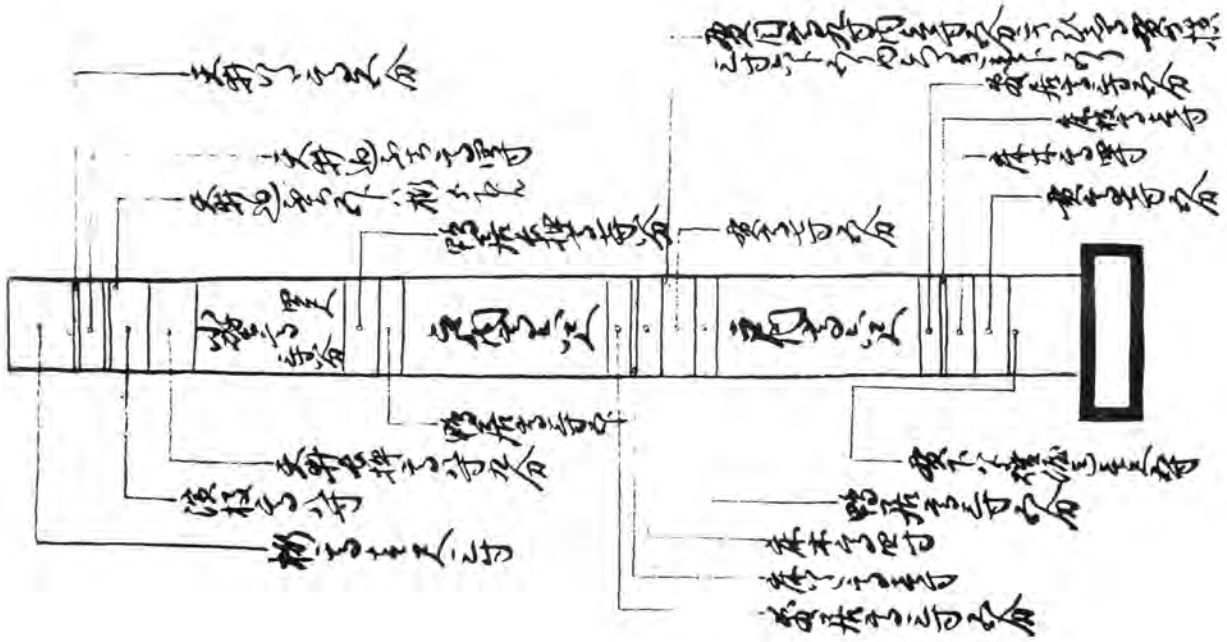


張木張木張木張木  
張木張木張木張木

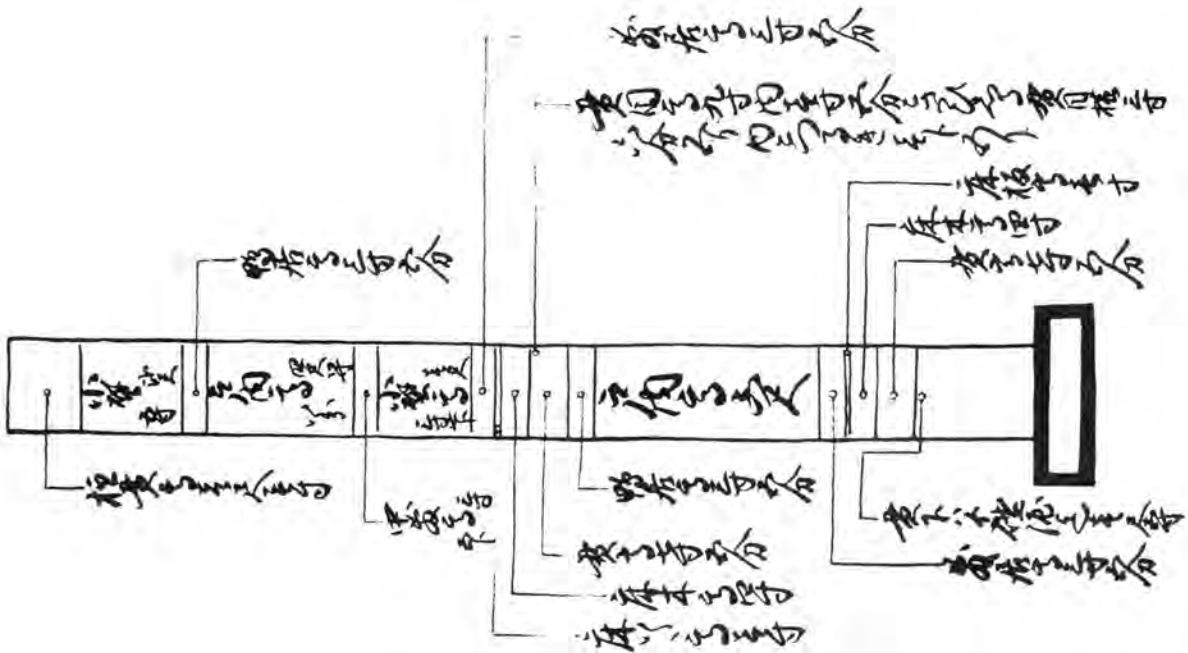
張木張木張木張木



# 書櫃之設計方法



# 書櫃之設計方法

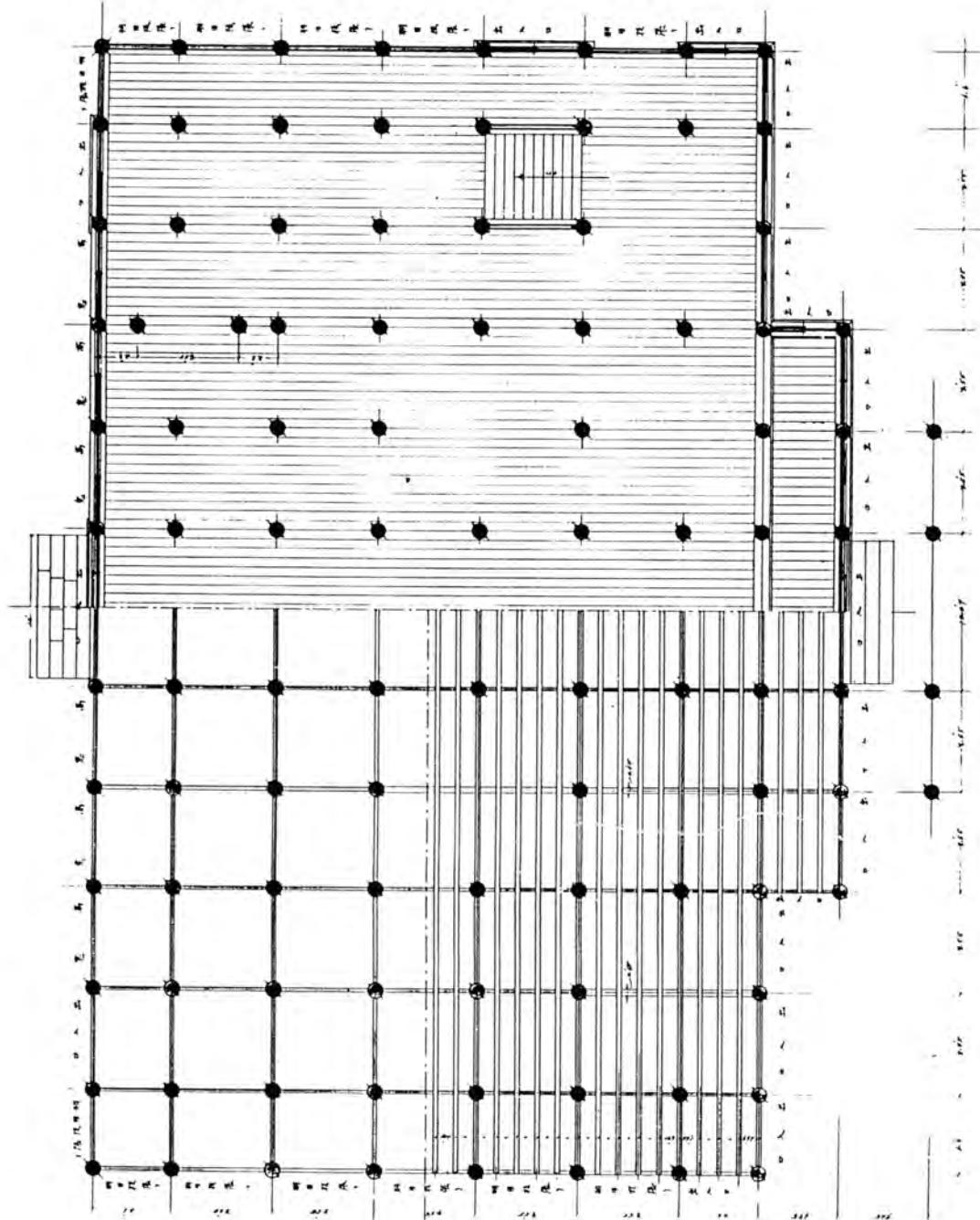


■国宝建造物冲縄神社拝殿図(抜粋)

# 國寶建造物沖繩神社拜殿

## 一階平面圖

縮尺五十分之一

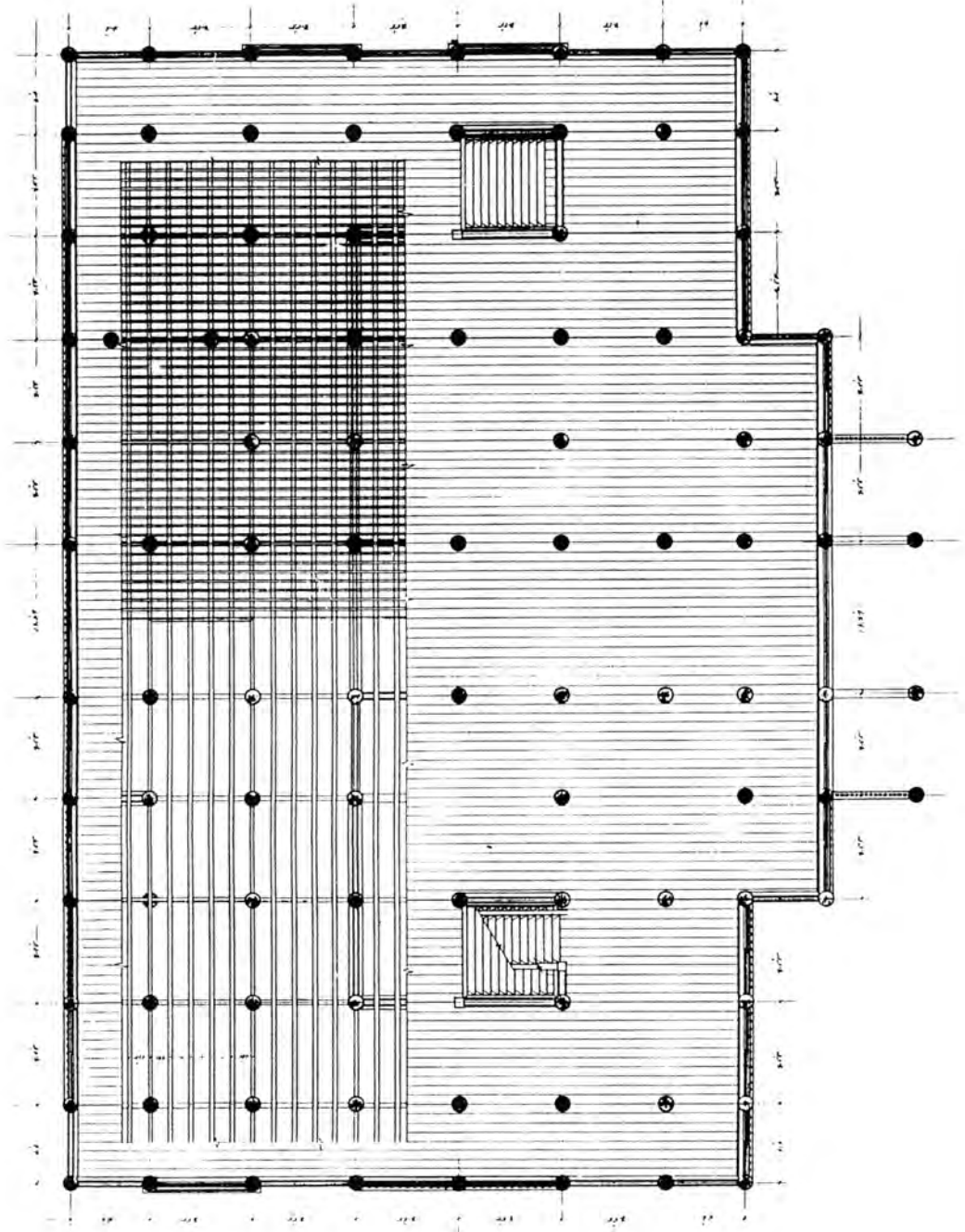


7

# 國寶建造物沖繩神社拝殿

## 二階平面圖

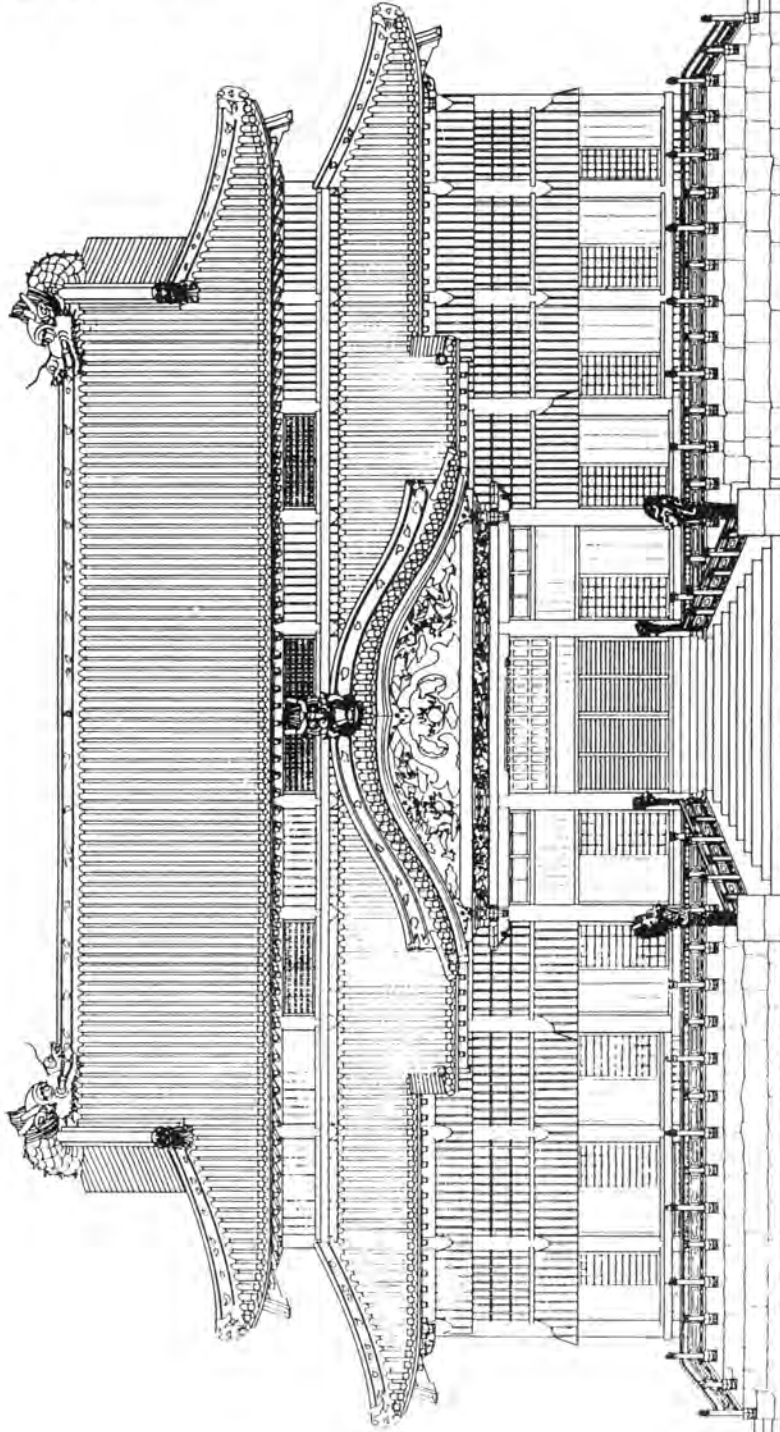
縮尺五十分一



# 國寶建造物沖繩神社拜殿

## 正面圖

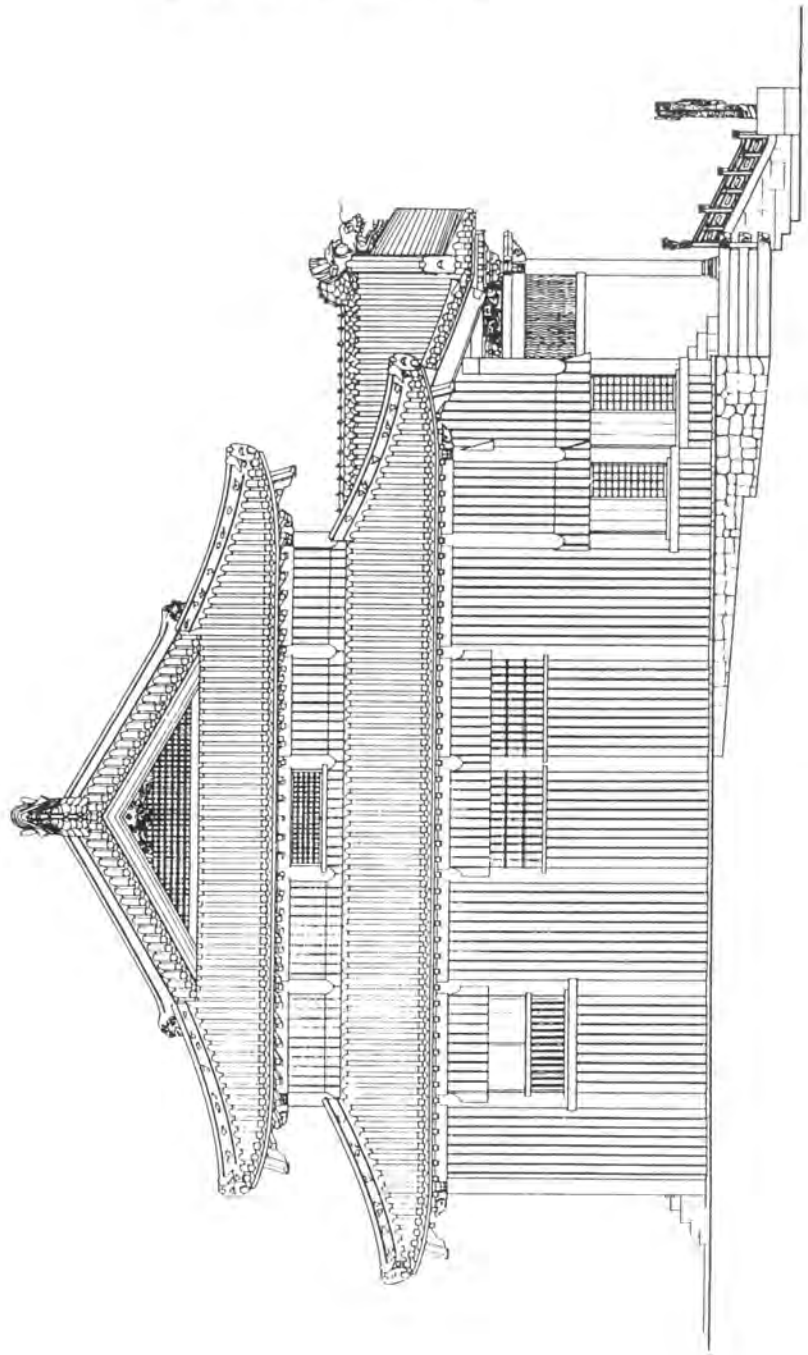
縮尺五十分之一



# 國寶建造物沖繩神社拝殿

## 側面圖

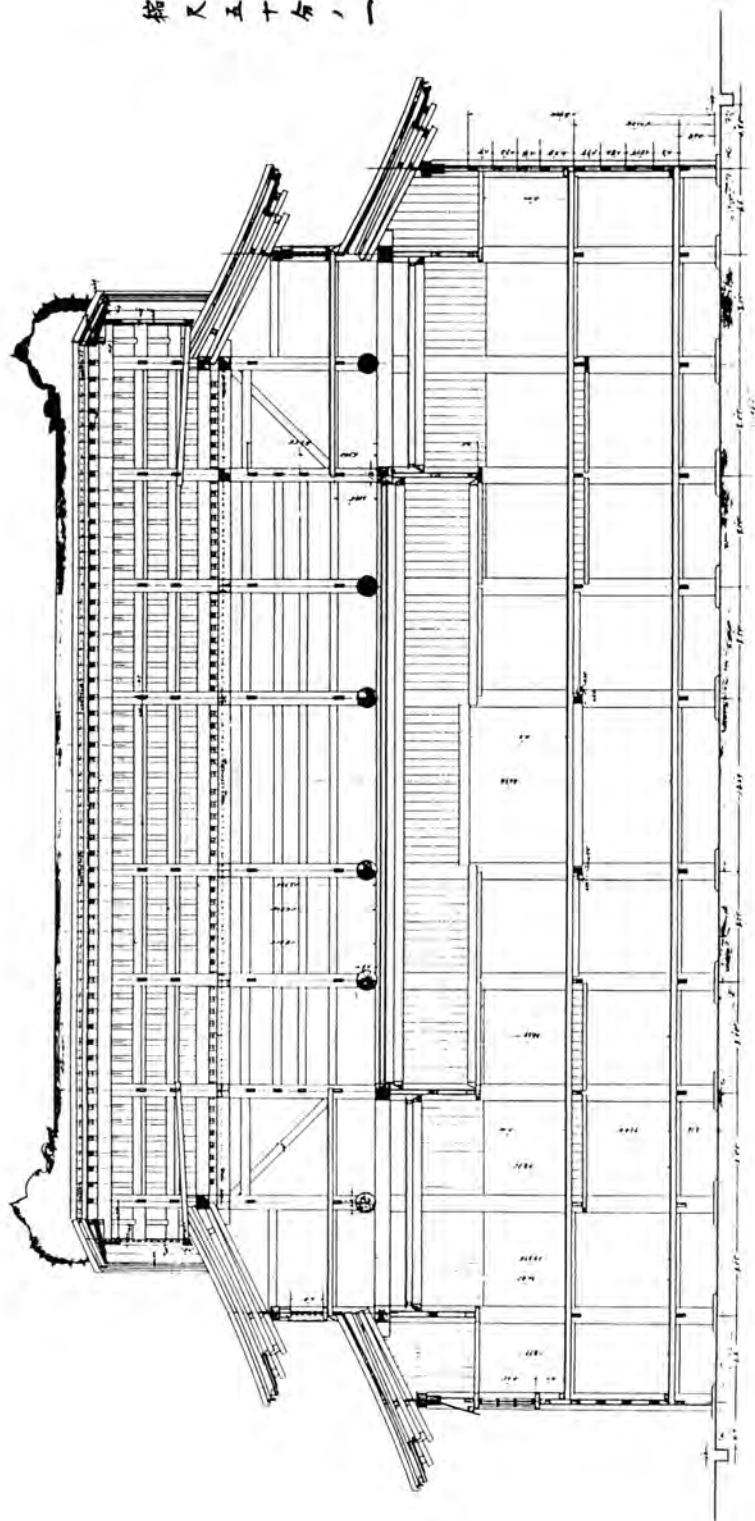
縮尺五十分之一



# 國寶建造物沖繩神社拜殿

## 横断面圖

縮尺五十分之一

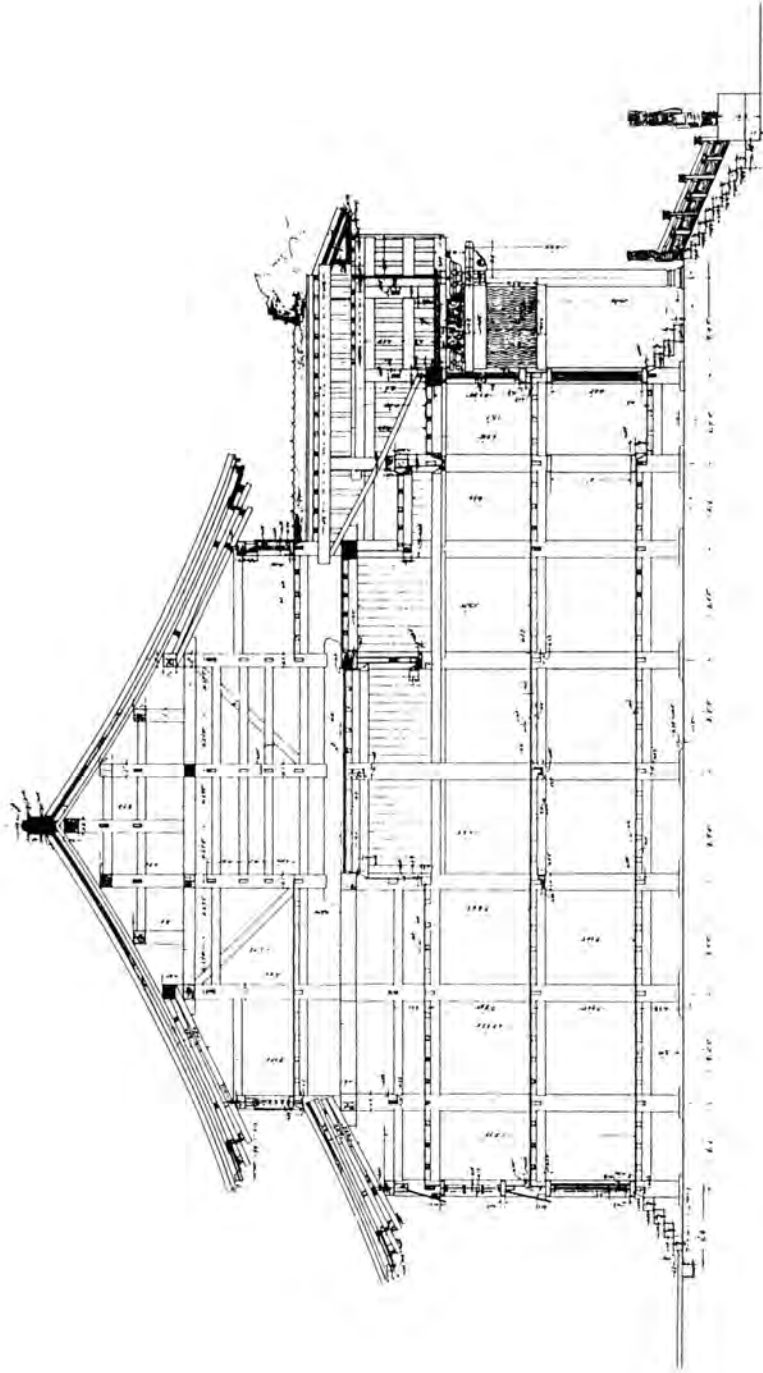


11

國寶建造物沖繩神社拜殿

縦断面圖

縮尺五十分一

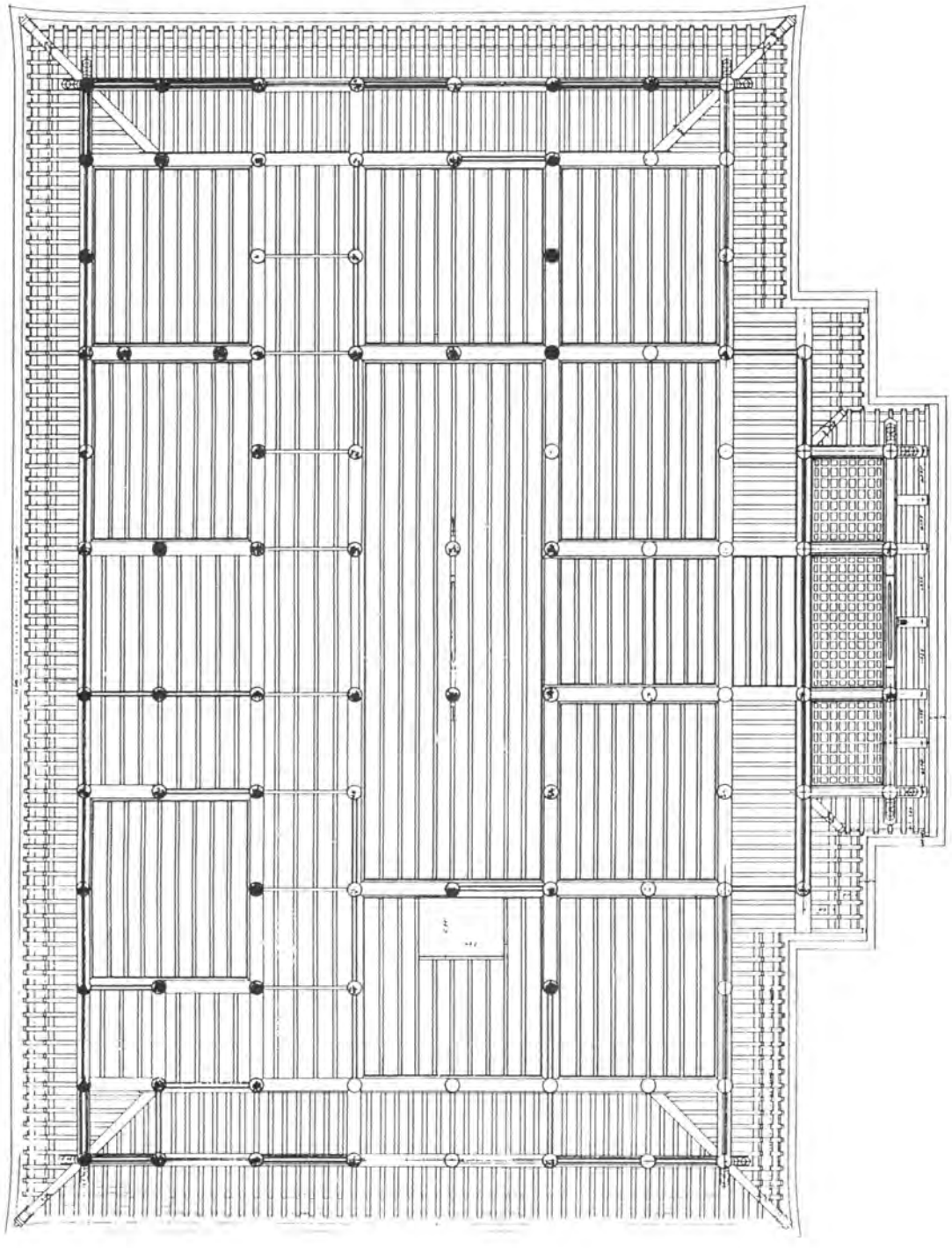




# 國寶建造物神繩神社拜殿

下層見上圖

縮尺五十分之一

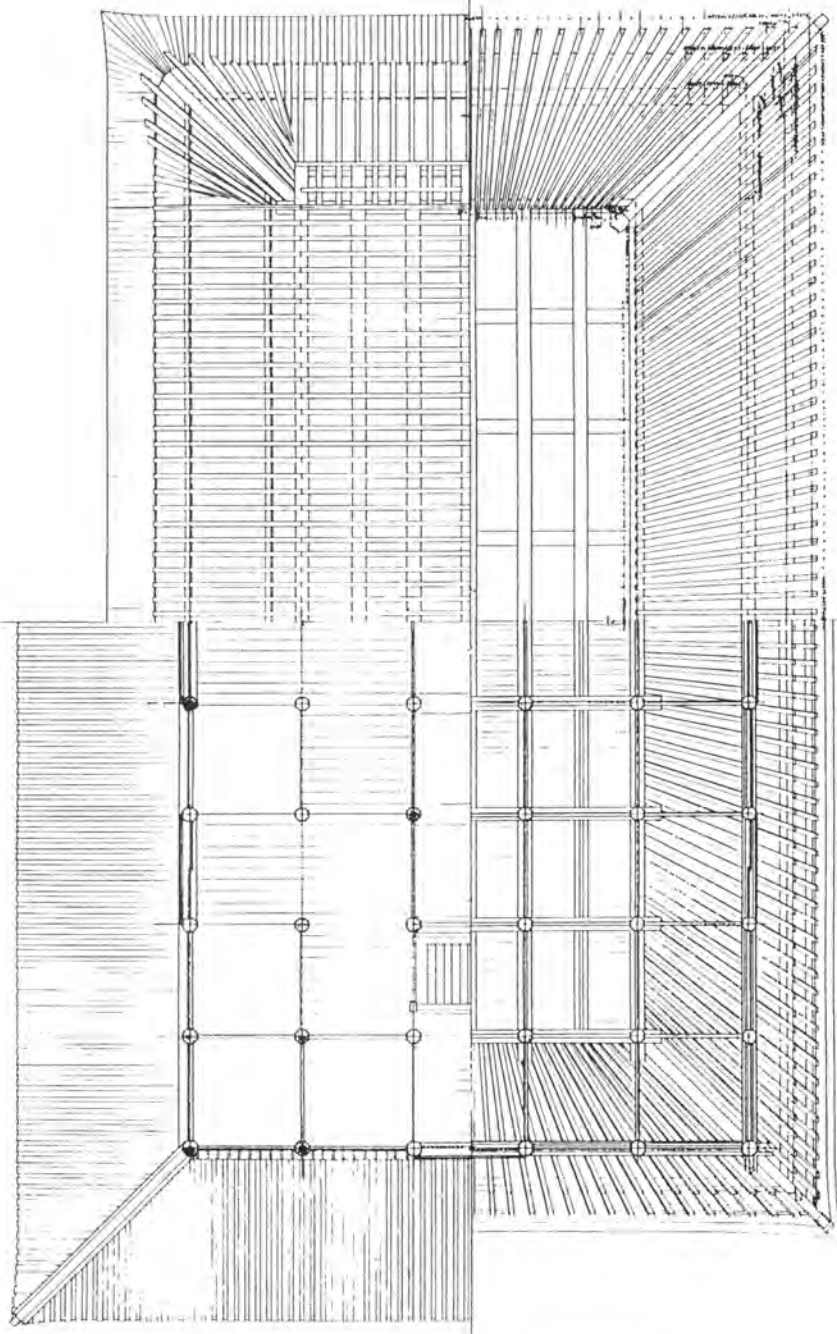


# 國寶建物沖繩神社拜殿

縮尺五十分之一

小屋組伏圖

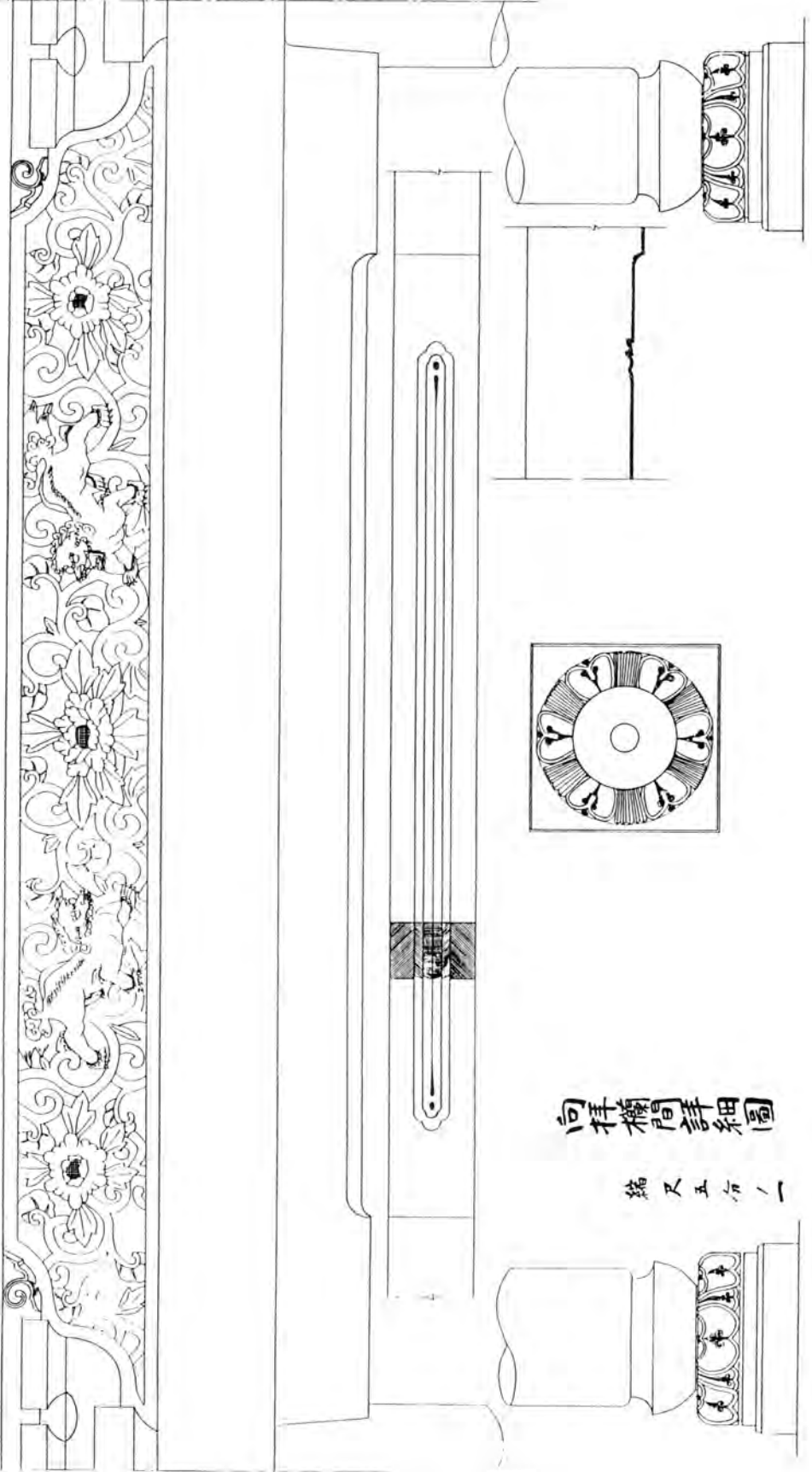
矩計圖



上層平面圖

上層見上圖

殿拜社土神繩沖物造建寶國



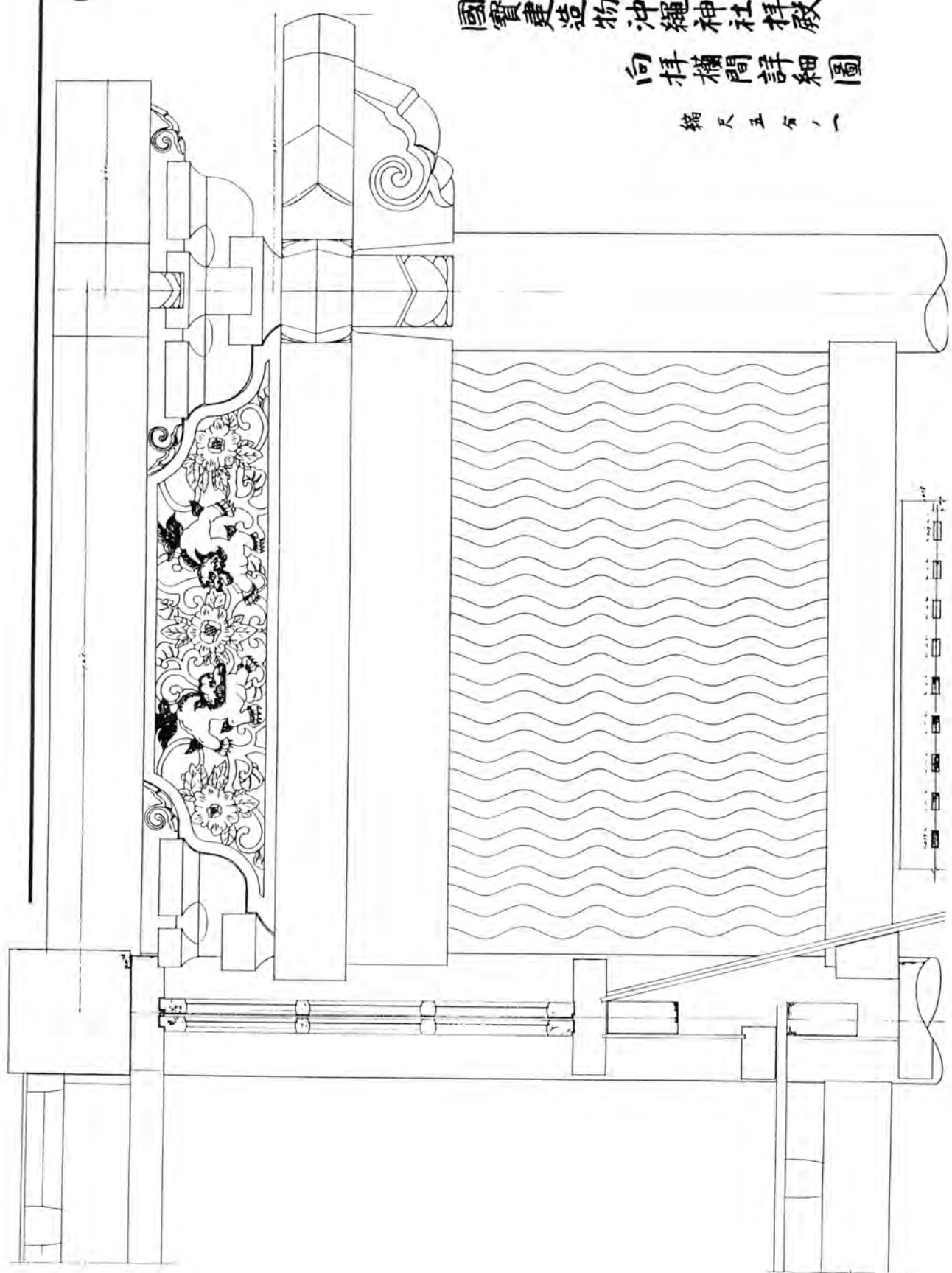
向拜欄詳細圖

縮尺五分一

# 國寶建造物沖繩神社拜殿

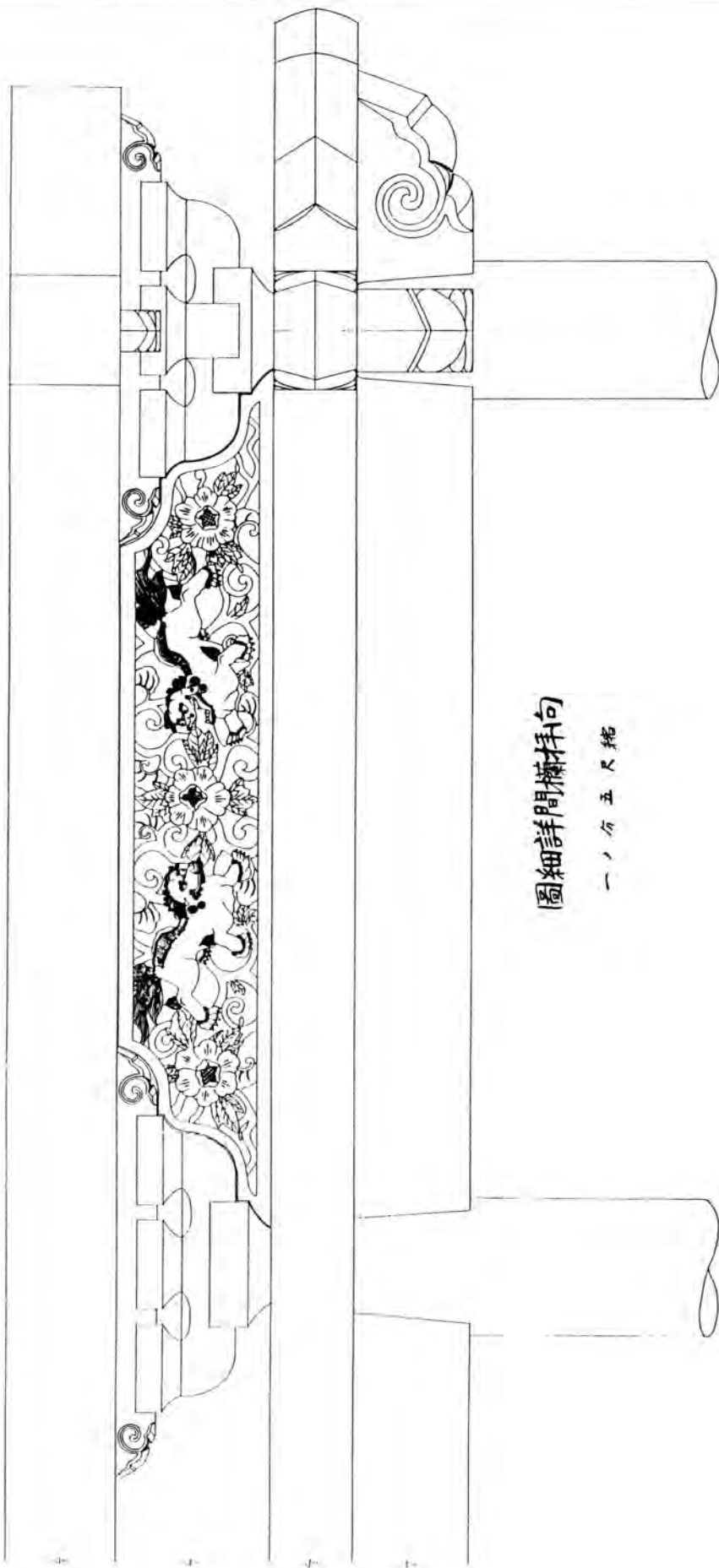
## 向拝欄間詳細圖

縮尺五分ノ一



國寶造沖繩神社拜殿

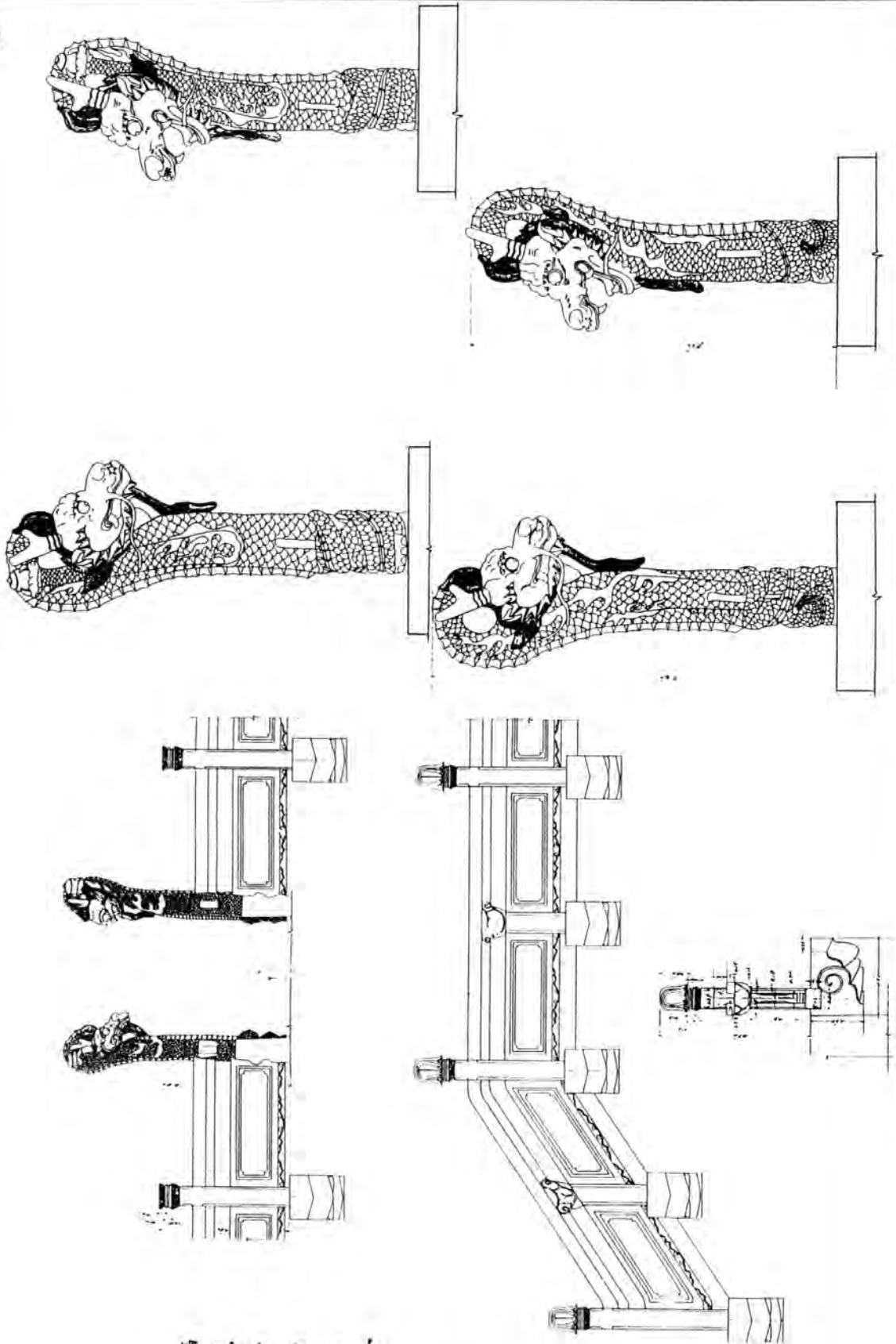
16



向拜欄間詳細圖

縮尺五十分之一

17



縮尺十分之一

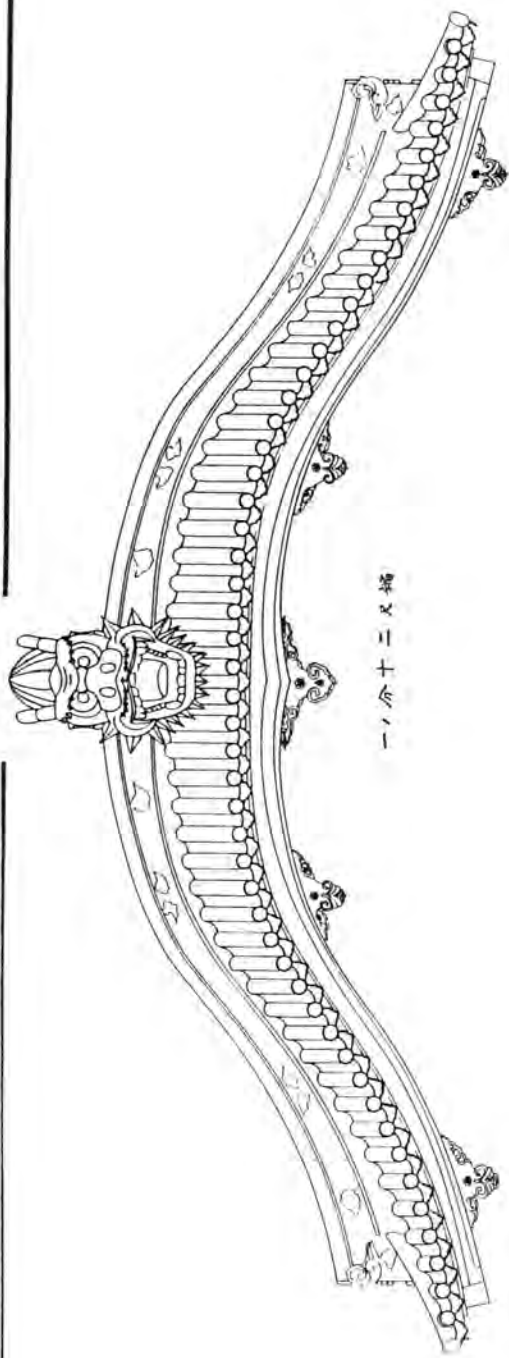
石高欄詳細圖

國寶建造物沖繩神社拜殿

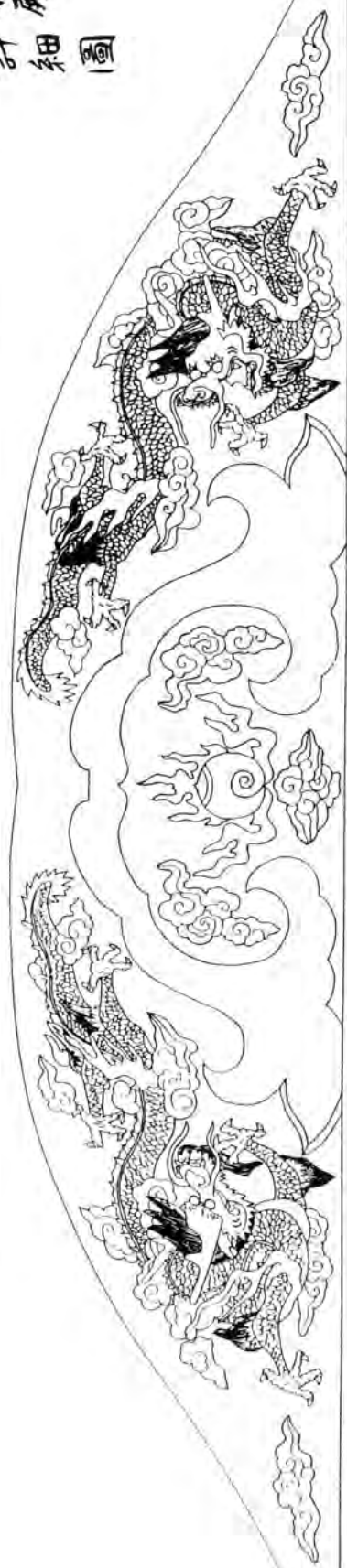


# 國寶建造物沖繩神社拜殿

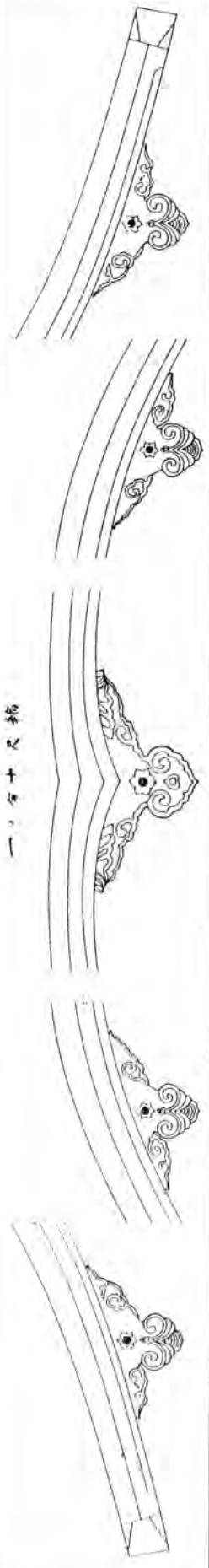
## 向拜詳細圖



一、分十二尺幅



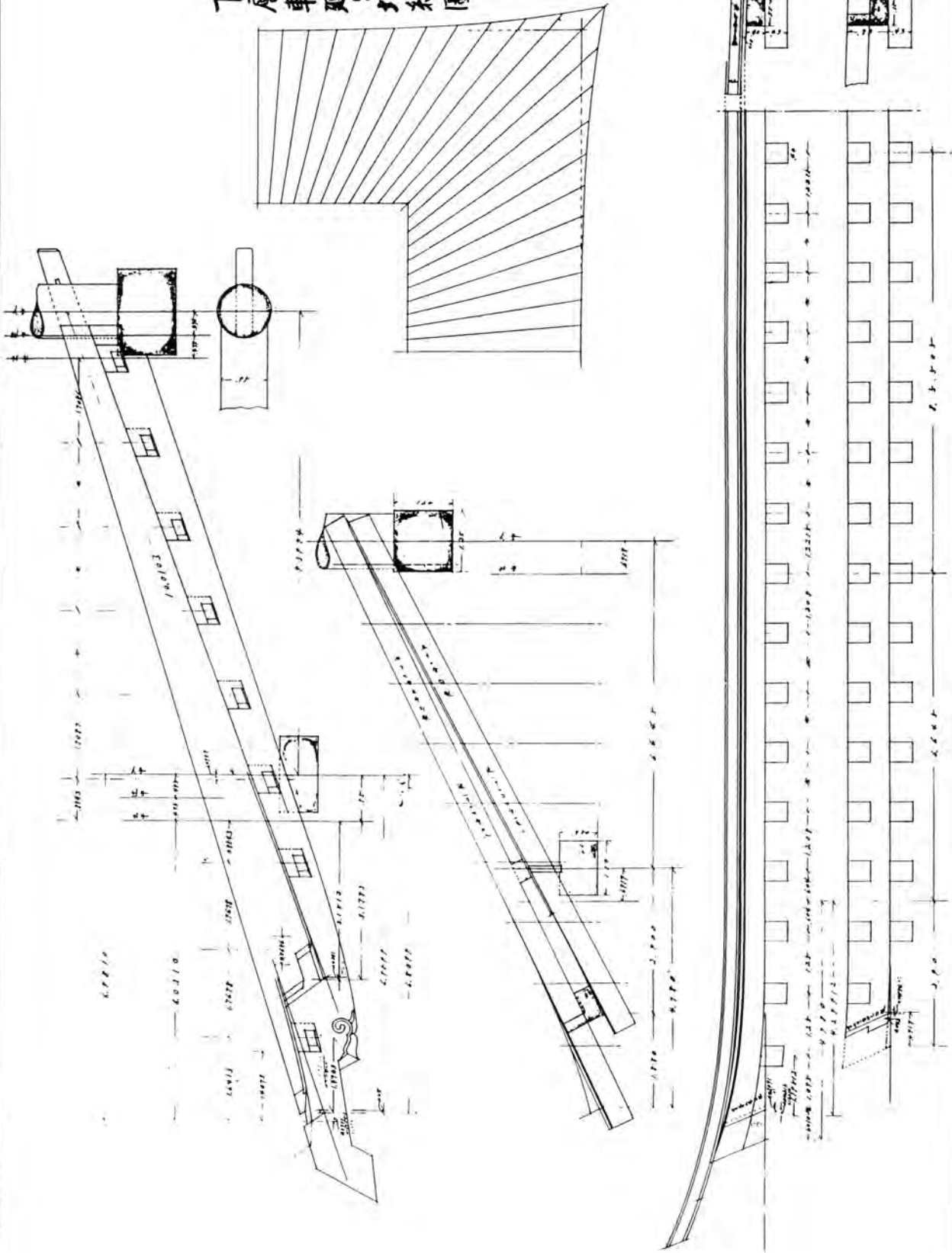
一、分十尺幅



# 國寶建造物沖繩神社拜殿

縮尺十分一

## 下層軒廻り切組圖

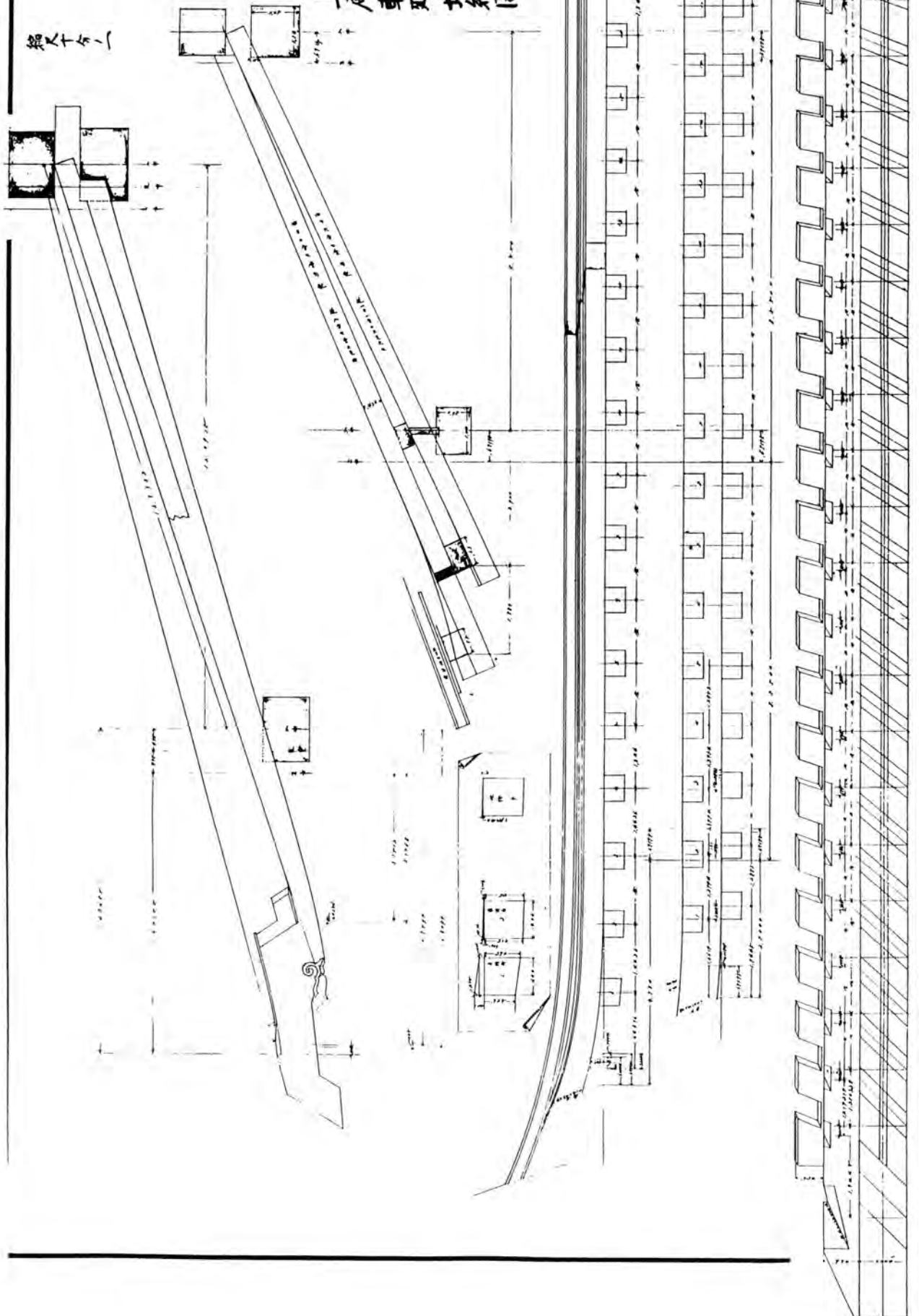




# 國寶建造物神繩神社拝殿

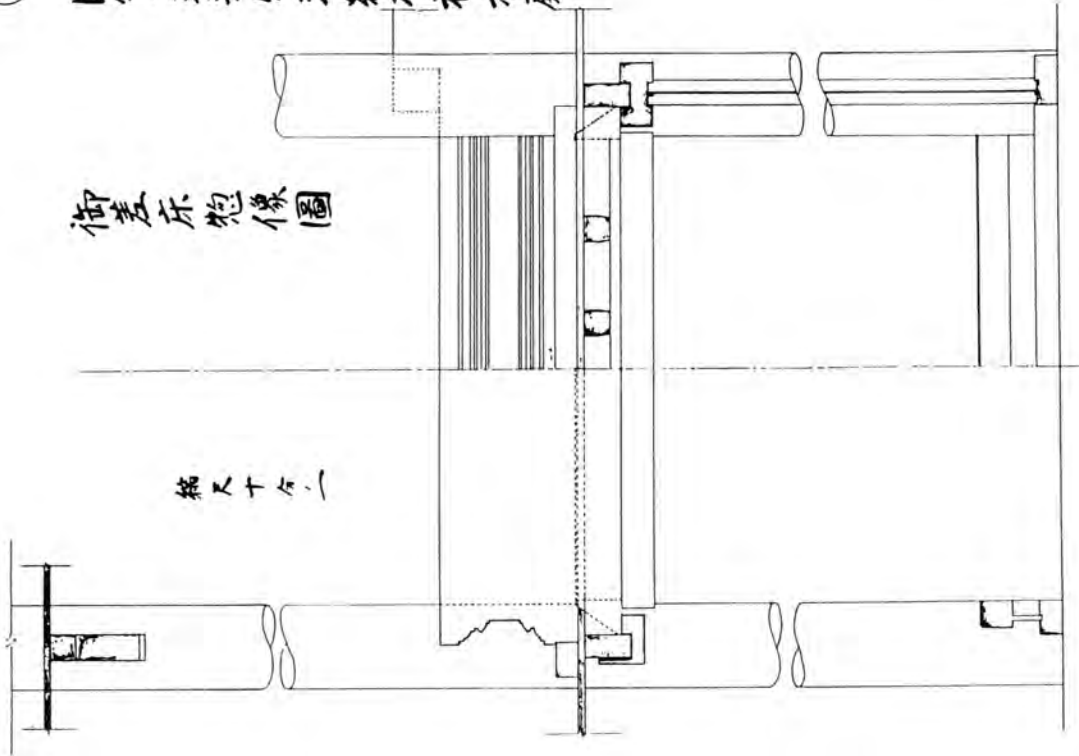
## 上層軒廻り切組圖

縮尺十分一

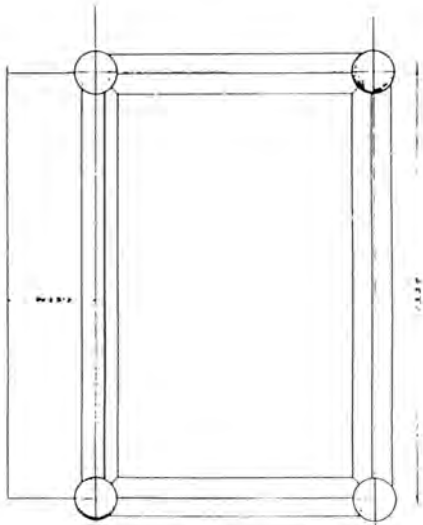


國寶建造物沖繩神社拝殿

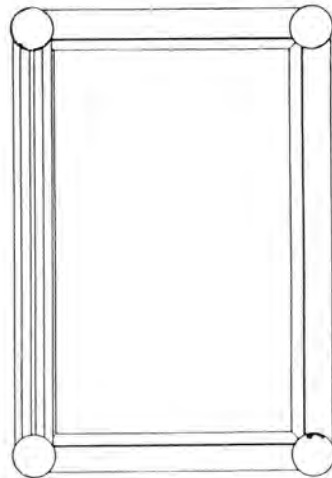
御座床惣像圖



縮尺十分一



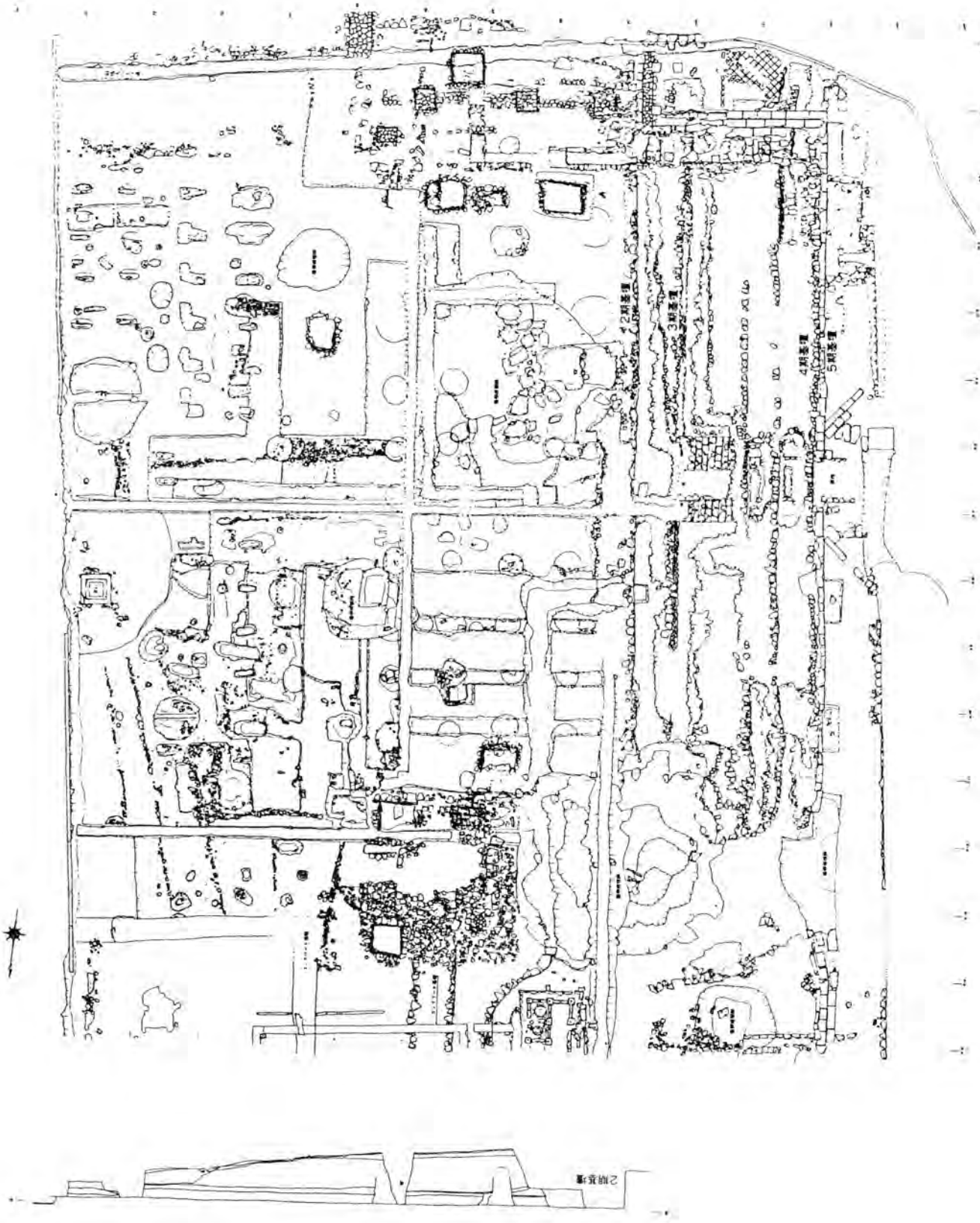
縮尺二十分一



現寸圖



■ 正殿跡遺構平面図



（沖縄県教育庁文化課 昭和62年3月作成）

■久米赤土彩色顔料調査

## ■ 久米赤土彩色顔料調査

現地調査 H3.5.21~5.22

### 1. はじめに

平成元年3月の予備調査で、「久米赤土」に関する古文書の記述に基づき現地踏査と聞き取りを行い、島内の7地区より計10個の試料を採取し、試験塗など各種の検討を重ねてきた。その結果、種々の点で良好な試料として、赤味の強いイクソウ地区の試料が目された。今回、このイクソウ試料を含め、代表的な赤土の産状や物理・化学的な特性の把握を主な目的として、再度現地踏査と伝承などの聞き込みを行った。また、室内分析により、諸特性を比較検討したので、ここにその結果を報告する。

### 2. 赤土の産状

予備調査の試料採取地を中心に島内全域を再踏査して、赤土の色調や粒度組成を概観した後、主なタイプとして、母岩の違いから阿良岳タイプと宇江城岳タイプの色調の違いを確認した。阿良岳タイプは、黄色みを帯び黄赤に近い色調、宇江城岳タイプは、黒みを帯び赤さび色からマルーンに近い色調を特徴としている。

いずれもその産状は、畑や斜面の表層に分布する表土で、薄く母岩を覆っており、母岩の分布する至る所に広く分布している。下位には灰褐色の風化母岩（玄武岩や安山岩）が分布している。

これらに比べ、イクソウ地区の産状は、露頭スケッチに示すようにやや異なっている。上部を安山岩溶岩の風化部に覆われ、法面の中腹より緩く傾斜して幅50~100cmの厚さで延びており、下位には、灰褐色の凝灰岩が分布している。表土とは異なりこの層準に挟まれて、局部的にしか分布しておらず、造成で削り取られているので、周辺を観察しても同様な試料は分布していない。細粒の火山灰を母材にしており、きれいな粘土で、赤みが強くアカネ色に近い深い色調で、特徴的である。露頭では粘土の割れ目表面に黒色の薄い膜が生じているが、マンガンをマグネシウムの酸化物が集積したものである。

なお、今回具志川村の教育委員会や久米島焼の中村氏を訪ねたが、残念ながら、「久米赤土」の伝承に関わる新たな情報は得られなかった。

### 3. 物理化学特性

代表的な試料として、イクソウ、仲地、トクジムの3試料についてサンプリングし、その物理・化学的な特性を把握するために室内試験を実施した。試験項目と結果を一覧表に示す（表-1参照）。

粒度組成は、60~79%を5μm以下の細粒分が占め、この細粒分のうち80~90%はコロイド分であり、3試料ともきれいな粘土（CH）といえる。

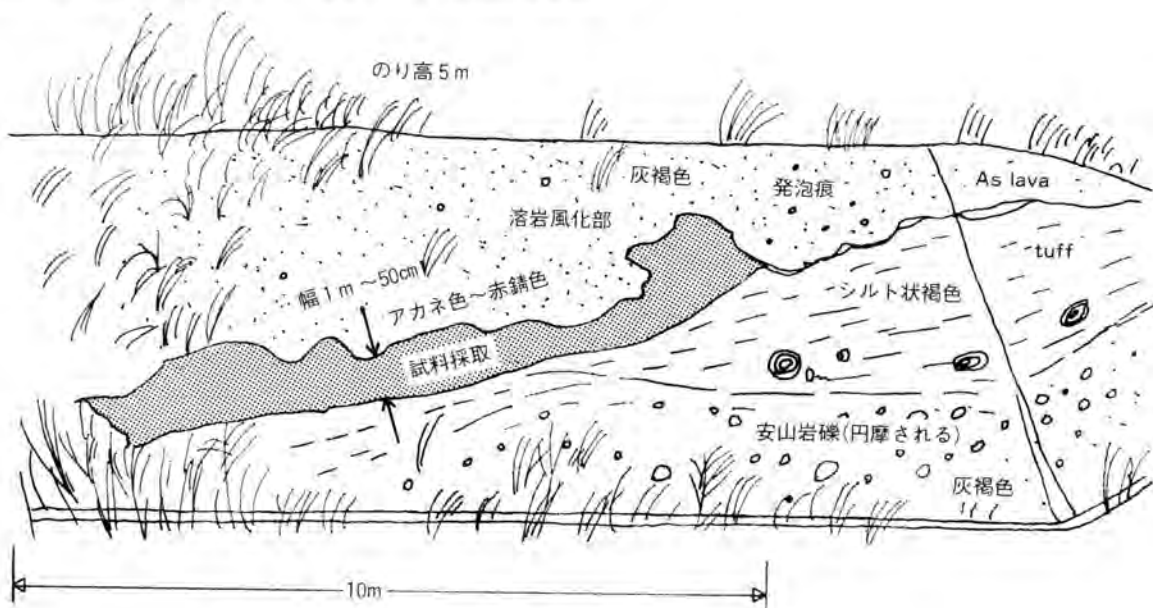
コンシステンシー特性は、仲地及びトクジム試料が国頭マージの一般的な値の範囲内に入るが（表-2参照）、イクソウ試料は、液性限界（ $W_L=114.5$ ）や塑性指数（ $I_p=70$ ）が著しく大きく、高い含水状態でも塑性状態を保てる特殊な粘土であることを示している。

国頭マージは、ラテライトまたはラテライト性土と呼ばれたことがあるが、一般的に、ラテライト化作用とは土中のけい酸とアルカリ成分が溶脱され、相対的に酸化鉄や酸化アルミニウムが富化する現象で熱帯の高温多湿な、排水のある条件下で起こるとされている。土の化学成分から定義される場合、多くは、けい鉄ばん比  $[\text{SiO}_2/(\text{Al}_2\text{O}_3 + \text{Fe}_2\text{O}_3)]$  が基準になり、けい鉄ばん比が1.33以下をラテライト、1.33~2.0の範囲をラテライト性土、2.0以上を非ラテライト性土と分類している。

この基準で見るとイクソウが1.16、仲地が0.71とラテライト、トクジムは1.57でラテライト性土に分類され、特に仲地の試料のラテライト化作用が進んでいるように見える。

色調に関係のある成分として、鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）、マンガ（ $\text{MnO}$ ）、マグネシウム（ $\text{MgO}$ ）の3成分について分析した。赤みを引き出す成分と考えられる鉄分は、赤みの強いイクソウが高いと予想されたが、仲地が19.1Wt%と高く、他の2つはいずれも10.7Wt%であり、意外な結果であった。しかし、マンガやマグネシウムは、総量は少ないもののイクソウが（ $\text{Mn}=0.26\%$ 、 $\text{MgO}=0.60\%$ ）相対的に多く、マンガで9~26倍、マグネシウムで2~3倍の量と著しく多い。イクソウの深みのある赤色（アカネ色様）は、マンガ及びマグネシウム成分が関与している可能性が考えられる。

久米島具志川村太田地内（通称イクソウ） 露頭スケッチ（赤土試料採集地点）



3 試料中に含まれる主な汚染物質として、ひ素、カドミウム、水銀について分析した。分析値について、各種の環境汚染に関わる防止判定基準や一般的な土壌の含有量と比較してみる（表-3）。

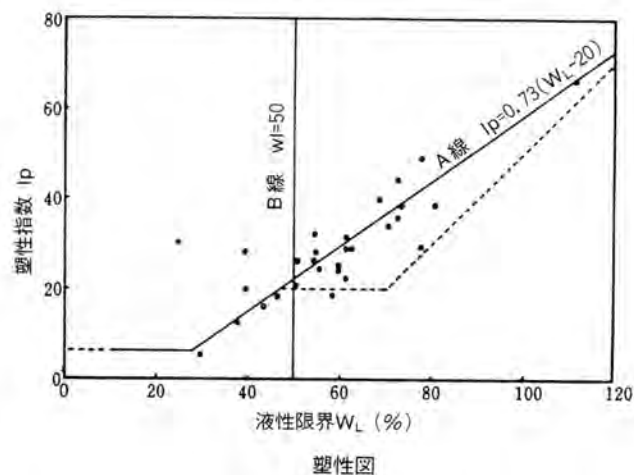
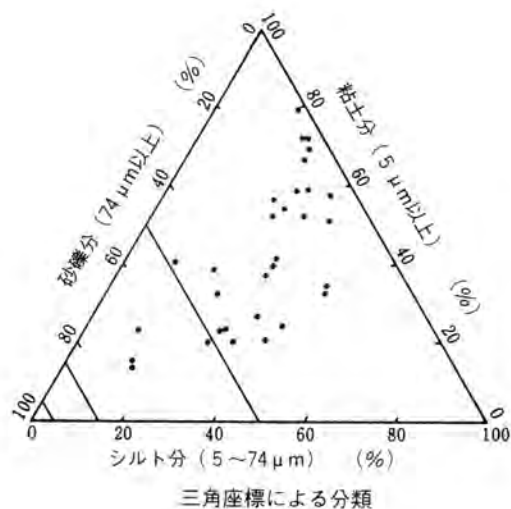
①農地土壌の汚染防止に関する法律施行令と②市街地土壌汚染問題検討報告書の対策を要する汚染土壌判定基準と比べると、3 試料ともひ素、カドミウム、水銀についての基準値を下回っている。③排水基準には適合しないものの、今回の値は乾燥試料の分析値であり、試料より水に溶け出す値は少なくなるはずで、単純に比較はできない。ボーエン(Bowen)による標準的な土壌の値と比較して、イクソウのひ素が17と平均6（0.1~10）に比べ若干高めであるが、その他カドミウム、水銀についてはその範囲内の小さな値を示している。

表-4 に沖縄本島内に分布する主要土壌に含まれる、ひ素についての既存分析値を示す。表からわかる通り、国頭マーゼとしては、高めの値ととれるが、島尻泥岩の風化土であるジャーガルと比べると、むしろ低めの値といえよう。いずれにしろ、汚染を受けている土壌とはいえ、人体に対する害などについても心配ないものと考えられる。

◆表-1 久米赤土分析結果

資料番号	単位	1.イクソウ	2.仲地	3.トクシム	
粒度特性	礫分 (2,000μm 以上)	%	0	0	0
	砂分 (74 ~ 2,000μm)	%	0.5	1.9	3.4
	シルト分 (5 ~ 74μm)	%	39.5	19.1	26.6
	粘土分 (5 μm 以下)	%	60.0	79.0	70.0
	最大粒径	mm	0.42	2.00	2.00
	均等係数 $U_c$		—	—	—
	曲率係数 $U_c'$		—	—	—
コンシステンス特性	液性限界 $W_L$	%	114.5	75.0	79.0
	塑性限界 $W_p$	%	43.8	44.3	33.4
	塑性指数 $I_p$		70.0	30.7	45.6
分類	日本統一土質分類		CH	CH	CH
	土質名		粘土	粘土	粘土
土粒子の比重 $G_s$			2.860	2.860	2.769
化学特性	ひ素	mg/kg	17.0	15.4	11.7
	カドミウム	mg/kg	0.15	<0.05	<0.05
	水銀	mg/kg	<0.01	0.03	0.02
	鉄 ( $Fe_2O_3$ として)	%	10.7	19.1	10.7
	アルミニウム ( $Al_2O_3$ ×)	%	26.16	33.14	23.80
	シリカ ( $SiO_2$ ×)	%	42.59	37.05	54.05
	マンガン ( $MnO$ ×)	%	0.26	0.03	0.01
	マグネシウム ( $MgO$ ×)	%	0.60	0.18	0.27
	有機炭素量	%	0.50	0.70	0.71

※濃度は乾燥ベースである





◆表-2 国頭マージの物理的性質

番号	試料名	比重	比表面積 (m <sup>2</sup> /g)	液性限界 (%)	塑性限界 (%)	塑性指数	砂礫分 (%)	シルト分 (%)	粘土分 (%)	分類
1	国頭村辺戸	2.73	—	39.6	19.6	20.0	44	25	31	(CL)
2	大宜味村大保	2.84	—	51.5	31.2	20.3	27	33	40	(CL)
3	名護市為又	2.74	—	43.9	27.7	16.2	52	28	20	(ML)
4	＊ 幸喜	2.74	27.6	24.9	24.8	30.1	15	32	53	(CL)
5	＊ 久志	2.69	6.1	32.0	—	—	72	15	13	(SM)
6	宜野座村真平原	2.82	54.0	56.0	32.1	23.9	5	23	72	(CH)
7	金武町金武	2.69	10.3	34.9	—	—	47	33	20	(ML)
8	＊ ＊	2.75	13.3	39.3	—	—	39	36	25	(ML)
9	石川市山城	2.79	39.6	62.1	31.4	30.7	4	26	70	(CH)
10	＊ ＊	2.82	53.8	63.1	33.8	29.3	3	24	73	(CH)
11	読谷村多幸山	2.77	—	60.4	35.5	24.9	9	39	52	(CH)
12	石垣市名蔵	2.75	45.5	62.1	32.8	29.2	13	27	60	(CH)
13	＊ 嵩田	2.75	33.5	55.4	23.6	31.8	22	26	52	(CH)
14	＊ 森川	2.76	42.7	73.0	29.1	43.9	6	36	58	(CH)
15	＊ 大浦	2.78	—	77.9	48.9	29.0	28	35	37	(CH)
16	＊ ＊	2.79	—	112.0	45.7	66.3	6	27	67	(CH)
17	仲里村比嘉	2.76	51.2	54.6	28.9	25.7	10	31	59	(CH)
18	＊ ＊	2.76	70.9	72.6	36.9	35.7	2	18	80	(CH)

◆表-3 汚染に関連する各種環境基準と標準的な土壌の含有量

項目	基準値 イクソウ (mg/kg)	農地土壌汚染防止 等に関する法律施行 令の判定基準 (mg/kg)	市街地土壌汚染対策 に関する暫定対策指針 の判定基準 (mg/kg)	排水基準を定める 総理府令の判定基準 (mg/kg)	標準的な土壌に含まれる 値として Bowen 値 ppm = mg/kg
カドミウム Cd	0.15	1 mg/kg 以下	9 mg/kg 以下	0.1 mg/kg 以下	0.06 (0.01~0.7)
ひ素 As	17.0	10~20 mg/kg 以下	50 mg/kg 以下	0.5 mg/kg 以下	6 (0.1~10)
水銀 Hg	0.01	—	8 mg/kg 以下	0.005 mg/kg 以下	0.03 (0.01~0.3)

| は範囲を示す

◆表-4 ひ素について沖縄本島内土壌の既存分析値

国頭村 (国頭マージ)	2.6~10.3
具志川市 (ジャーガル)	13~39
＊ (島尻マージ)	10以下
糸満市 (クチャ)	5~10

・提供：(株)沖縄環境分析センター  
(mg/kg) dry

・母岩タイプ：国頭マージ (千枚岩、砂岩)  
ジャーガル (島尻層泥岩)  
島尻マージ (琉球石灰岩)  
クチャ (島尻層泥岩)



■国営沖縄記念公園首里城地区  
官報関係資料

- 文部省告示第 58 号 (昭和47年 5 月15日)
- 閣議決定 (昭和61年11月28日)  
( 沖縄復帰記念事業として行う都市  
公園の整備事業について )
- 沖縄県告示第 135 号 (昭和62年 2 月27日)
- 建設省告示第1,687 号 (昭和62年10月 5 日)
- 建設省告示第 133 号 (昭和63年 1 月28日)
- 建設省告示第 520 号 (平成 3 年 3 月12日)
- 建設省告示第1,749 号 (平成 4 年10月27日)
- 建設省告示第1,750 号 (平成 4 年10月27日)

○文部省告示第五十八号  
文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第六十九條第一項の規定により、左表に掲げる記念物をそれぞれ種別欄に示すとおり史跡、名勝または天然記念物に指定する。  
昭和四十七年五月十五日  
文部大臣 高見 三郎

史跡
首里城跡
沖縄県那覇市首里当蔵町三丁目
一番、一番ノ一
旧琉球政府道R四九号の道路敷および守礼門の敷地のうち実測六六六・四四九二平方メートル

○沖縄復帰記念事業として行う都市公園の整備について  
[昭和六十一年十一月二十八日閣議決定]  
沖縄の復帰を記念する事業の一環として、首里城跡地(沖縄県那覇市首里城跡地の面積約四ヘクタールの区域)を国営沖縄記念公園首里城地区、昭和五十年七月十五日に閣議決定(沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置について)された国営沖縄海洋博覧会記念公園を国営沖縄記念公園海洋博覧会地区として整備する。

○沖縄県告示第百三十五号  
都市計画法(昭和四十三年法律第百号)第二十一條第二項において準用する同法第十八條第一項の規定により、那覇広域都市計画公園を変更した。  
なお、当該都市計画の図書を次のとおり縦覧に供する。  
昭和六十二年二月二十七日  
沖縄県知事 西銘 順治

- 一 都市計画の名称  
五・五・六 首里城公園  
龍潭公園
- 二 都市計画の変更に係る土地の区域

(一) 追加する部分  
五・五・六 首里城公園・那覇市首里当蔵町二丁目、当蔵町二丁目、当蔵町三丁目、真和志町一丁目、金城町一丁目、大甲町一丁目及び赤田町二丁目  
(二) 削除する部分  
龍潭公園・那覇市首里当蔵町一丁目及び真和志町一丁目  
縦覧場所  
沖縄県土木建築部都市計画課

○建設省告示第千六百八十七号  
都市計画法(昭和四十三年法律第百号)第五十九條第三項の規定により、都市計画事業の承認をしたので、同法第六十二條第一項の規定に基づき、次のとおり告示する。  
昭和六十二年十月五日  
建設大臣 天野 光晴

- 一 施行者の名称 建設大臣
- 二 都市計画事業の種類及び名称 那覇広域都市計画公園事業五・五・六首里城公園
- 三 事業施行期間 自昭和六十二年十月五日至昭和六十六年三月三十一日
- 四 事業地 取用の部分 沖縄県那覇市首里当蔵町三丁目地内

○建設省告示第百三十三号  
都市公園法(昭和三十一年法律第七十九号)第二十三條第二項の規定に基づき、次のように都市公園を設置すべき区域を定めたので、告示する。  
昭和六十三年一月二十八日  
建設大臣 越智 伊平

- 名称 国営沖縄記念公園
  - 位置 (海洋博覧会地区) 沖縄県那覇市本部町(首里城地区) 沖縄県那覇市首里当蔵町
  - 区域 別紙図面のとおり(略)
- (沖縄開発庁沖縄総合事務局において、昭和六十三年一月二十八日から二週間一般の縦覧に供する。)

○建設省告示第百五十二号  
都市計画法(昭和四十三年法律第百号)第六十三條第一項の規定により、都市計画事業の事業計画の変更を承認したので、同法第二項の規定において準用する同法第六十二條第一項の規定に基づき、次のとおり告示する。  
平成三年三月十二日  
建設大臣 大塚 雄司

- 一 施行者の名称 建設大臣
- 二 都市計画事業の種類及び名称 昭和六十二年建設省告示千六百八十七号、那覇広域都市計画公園事業五・五・六首里城公園
- 三 事業施行期間 自昭和六十二年十月五日至平成三年三月三十一日
- 四 事業地 昭和六十二年十月五日建設省告示第千六百八十七号の事業地沖縄県那覇市首里当蔵町三丁目地内において事業地を変更する。

○建設省告示第千七百四十九号  
次のように都市公園の供用を開始するので、都市公園法(昭和三十一年法律第七十九号)第二條の二の規定に基づき、公告する。  
平成四年十月二十七日  
建設大臣 山崎 拓

- 名称 国営沖縄記念公園
  - 位置 沖縄県那覇市首里当蔵町三丁目
  - 区域 別紙図面のとおり(略)
- (沖縄開発庁沖縄総合事務局において平成四年十月二十七日から二週間一般の縦覧に供する。)
- 供用開始の期日 平成四年十一月三日

○建設省告示第千七百五十号  
都市公園法施行令(昭和三十一年政令第二百九十号)第二十一條の規定に基づき、昭和六十二年建設省告示第千八百五十九号の一部を次のように改正する。  
平成四年十月二十七日  
建設大臣 山崎 拓

- 一 次のように改める。
- 1 公開日時
  - (一) 公開日
    - (一) 海洋博覧会地区 一月一日から十二月三十一日まで(毎週木曜日(木曜日が休日)に当たるときは金曜日)を除く。
    - (二) 首里城地区 一月一日から十二月三十一日まで
  - 2 公開時間
    - (一) 海洋博覧会地区
      - (イ) 七月二十一日から八月三十一日までの公開日 午前九時三十分から午後七時まで
      - (ロ) 十二月一日から二月末日までの公開日 午前九時三十分から午後五時三十分まで
      - (ハ)(イ)及び(ロ)以外の期間の公開日 午前九時三十分から午後六時まで
    - (二) 首里城地区
      - (イ) 三月一日から十一月三十日までの公開日 午前八時三十分から午後六時三十分まで
      - (ロ) 十二月一日から二月末日までの公開日 午前八時三十分から午後六時三十分まで
  - 3 公開日時の変更 公益上やむを得ない理由があるときは、公開日時を変更することができる。この場合においては、入口にその旨を掲示する。